

年報
2021 年度



東京医療保健大学 立川看護学部

TOKYO HEALTHCARE UNIVERSITY
Tachikawa Faculty of Nursing

東京医療保健大学 東が丘・立川看護学部（災害看護学コース）

TOKYO HEALTHCARE UNIVERSITY
Higashigaoka-Tachikawa Faculty of Nursing
(Disaster Nursing Program)

2021 年度 年報

目次

卷頭言	・ ・ ・ ・ ・	1
1. 組織図	・ ・ ・ ・ ・	2
2. 学内行事	・ ・ ・ ・ ・	3
3. 入試状況	・ ・ ・ ・ ・	10
4. 教職員名簿	・ ・ ・ ・ ・	11
5. 委員会活動	・ ・ ・ ・ ・	13
6. 教育活動	・ ・ ・ ・ ・	19
7. 業績	・ ・ ・ ・ ・	47

巻頭言

看護師国家試験の結果について 100%合格を目指してもなかなか達成できない。神頼みをしたいと思い達磨に願いを込めて購入し、関係者で片方に目を入れて貰い、皆であれこれと知恵を絞り、工夫を凝らして日々達磨を視れば祈るような気持ちとなって、学生に期待を込める。教員は学生一人一人の能力に併せて頑張るように指導を重ねている。教員の心知らずの通り、毎年のように残念というほんの少しの所で 100%に至らない。能力のレベル差はそんなにないと思われるが、4年間の学修の差で知識力がついている人とそうでない人の差のような気がする。ここ数年の皆の課題でもある。

2021 年はコロナ禍 2 年目であったが、教育、研究、社会貢献の 3 項目については、立川看護学部はとても良く頑張った。教員と学生が一致協力しその成果が現れている年報となっている。従来よりも広報であったり、入試であったり、各委員会活動が活発であり、その活動内容が明確に記載してある。動いている大学本部との調整や各種委員会も立川看護学部としての役割・使命をしっかりと果たし、より特徴も明確になってきた 1 年間である。それがまた、年報をみると良く理解できる。素晴らしい前進の一年である。

さらに、看護教員の業績となっている研究活動業績は、公的研究費の採択率をみれば明確である。東が丘・立川看護学部は本学全体の研究費の採択率の 50%以上となっており、コース別に比較してみても両者に遜色なく、その為研究活動も活発である。業績がしっかりと残されている。

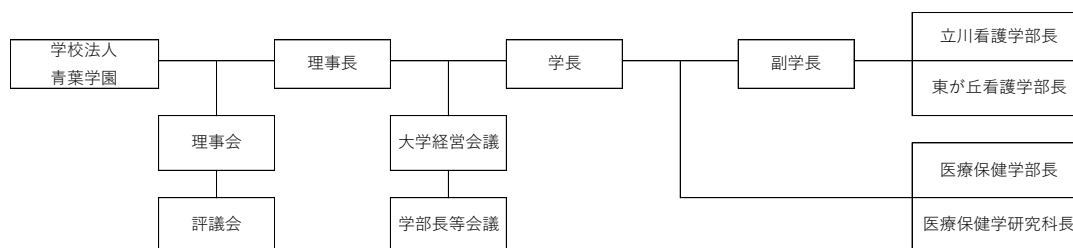
昨年度も同様に感じて記載したが、全教員の活動記録が年報をみれば全て見える。一例を述べると、多忙さが教育によるものなのか、研究によるものなのか、社会貢献によるのか良く見えている。学内・外の委員会活動も見える化出来ている。兎に角、年報は教員の活動実績が良く表れており、貴重で素晴らしい記録である。

将に年報は、「継続は力なり」という言葉に尽きる。我が大学の発展の歴史が見え、教員の素晴らしさと凄さがみえる資料である。委員の皆さんの労力に対しては特別に感謝を捧げたい。有難うございました。

令和 4 年 5 月 2 日

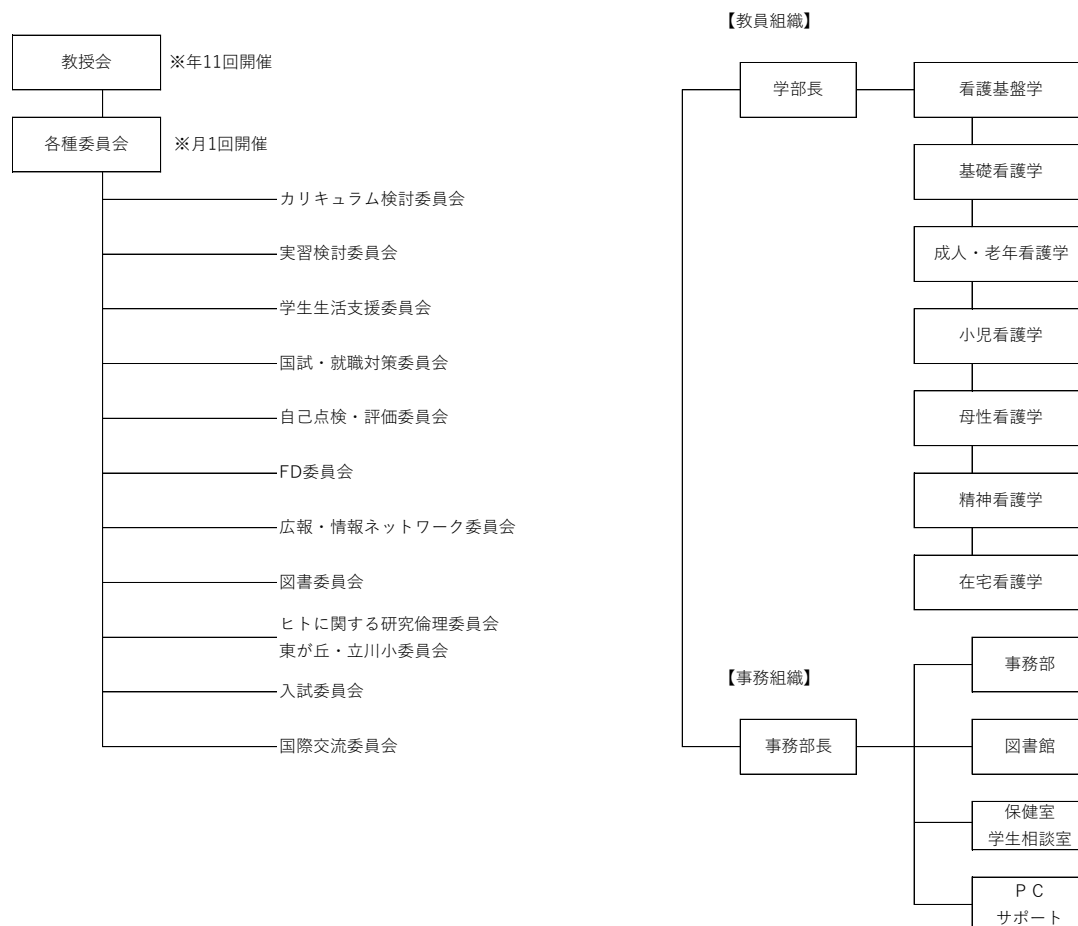
立川看護学部長 山西文子

1. 組織図



※大学経営会議：年5回開催
 ※理事会・評議会：年3回開催
 ※学部長等会議：年11回開催

立川看護学部運営組織



2. 学内行事

2-1. 学年暦

【 前 期 】

4 月

- 1 日 学内オリエンテーション(1～5 日)、新入生
ガイダンス
- 2 日 健康診断
- 7 日 入学式
- 6 日 前期セメスター授業開始

5 月

- 30 日 在宅看護学実習(～7/2)
- 31 日 看護学体験実習(～6/4)

6 月

- 4 日 WEB 6 月オープンキャンパス
(～6/23)
- 20 日 来校型 6 月オープンキャンパス
- 24 日 スポーツ大会(中止)

7 月

- 5 日 看護過程展開実習(～7/16)
- 19 日 看護学統合実習(～7/30)
- 17 日 WEB オープンキャンパス(～8/31)

8 月

- 3 日 災害看護学実習(～5 日)
- 3 日 看護学統合実習(7 日)
- 6 日 来校型 学科見学会
- 17 日 各論実習－母性看護学実習等
(～R3/2/5)
- 22 日 来校型オープンキャンパス
- 25 日 夏季休業開始(～9/30 まで)

9 月

- 4 日 災害訓練(中止)
- 21 日 公開講座(立川市と共催)
- 24 日 新入生合宿研修(中止)

【 後 期 】

10 月

- 1 日 後期セメスター授業開始
- 10 日 入試説明会
(WEB 型 9/21～11/7)

11 月

- 6 日 医愛祭(～11/7 中止)
- 14 日 学校推薦型入学試験(指定校・公募制)
- 27 日 個別見学会
- 30 日 老年看護学実習(～12/11)

12 月

- 1 日 開学記念日
- 7 日 個別見学会
(WEB 一般選抜入試説明会～R4/2/17)
- 10 日 来校型個別見学会
- 16 日 卒業生との懇談会
- 29 日 冬季休業開始(～R4/1/3)

1 月

- 22 日 災害訓練(中止)
- 25 日 一般選抜入学試験(A 日程)

2 月

- 4 日 一般選抜入学試験(B 日程)
- 7 日 看護師国家試験壮行会
- 8 日 就職支援講座(～2/9)
- 13 日 看護師国家試験日
- 14 日 日常生活援助展開実習(～2/18)
- 18 日 一般選抜入学試験(C 日程)

3 月

- 16 日 学位記授与式・修了式
- 26 日 春のオープンキャンパス

2-2. 8月 来校型 オープンキャンパス

【概要】

五反田キャンパス、国立病院機構キャンパス、国立病院機構立川キャンパス、船橋キャンパスにて、実施キャンパスごとに模擬授業、学生体験談、卒業生体験談など特徴のあるプログラムをご用意しております。是非ご参加ください。また、キャンパス見学なども予定しております。感染対策のため事前予約制とし、参加対象を制限させていただいております。ご理解のほどよろしくお願いいたします。

【参加対象者】

ご家族の付き添いは1名以内でお願いします。保護者の方のみのご参加はご遠慮ください。

※本イベントは事前予約制となっております、予約なしの当日のご参加はできません。

※来学の際は必ず不織布マスクの着用をおねがいたします。

【来場時に注意事項】

新型コロナウイルス感染拡大のため、当日はご自宅にて、参加される方全員の検温と健康チェックを行い、体調がすぐれない方や、体温37, 5℃以上の方は来校をお控えください。また、会場では検温・手指消毒のご協力をお願いしています。

【日時】2021 年 8 月 22 日(日)9:30～17:00

【コンテンツ】

- ・学部長挨拶
- ・学部学科紹介
- ・国家試験対策と就職サポート
- ・在学生メッセージ(オンライン)
- ・卒業生メッセージ(オンライン)
- ・2022 年度入試概説明(THCU の過去問の配付)
- ・キャンパス見学会(学生の希望者のみ)
- ・学生消防団対応(有志:4 年次生 4 名)

2-3. 6 月来校型オープンキャンパス(首都圏 看護学科)

【概要】

五反田キャンパス、国立病院機構キャンパス、国立病院機構立川キャンパス、船橋キャンパスにて、2021 年度入試結果と 2022 年度入試の最新情報について、説明いたします。また、キャンパス見学なども予定しております。感染対策のため、事前予約制とし、参加対象を制限させていただいております。

ご理解のほどよろしくお願いいたします。

【参加対象者】

・本学の首都圏 看護学科に関心のある高校生または、既卒性。

・ご家族に付き添いは 1 名以内でお願いいたします。保護者の方のみのご参加はご遠慮ください。

※本イベントは事前予約制となっております。予約なしの当日のご参加はできません。

※来学する際は必ず不織布マスクの着用をお願い致します。

【実施日時】2021 年 6 月 20 日(日)10:00～17:00

【コンテンツ】

- ・2021 年度入試結果&2022 年度入試概要説明
- ・看護学科紹介
- ・在学生による入費体験談
- ・キャンパス見学ツアー
- ・その他

2-4. WEB 版 6 月オープンキャンパス(首都圏 看護学科)

【概要】

首都圏 4 つの看護学科の入試やそれぞれの学科のことについて詳細を知ることができます。また、2021 年度入試結果や 2022 年度入試の最新情報について、説明いたします。今回より過去問題（推薦・一般）の配布を行います。

【申込開始】2021 年 5 月 25 日(火)10:00～

【実施日時】2021 年 6 月 4 日(金)12:00～6 月 23 日(水)22:00

※上記期間中、いつでもご覧になれる Web 動画を配信します。

【コンテンツ】

- ・看護学科説明
- ・2021 年度入試結果&2022 年度入試概要
- ・キャンパス紹介動画

【実施日時】2021 年 6 月 4 日(金)12:00 ～ 2021 年 6 月 23 日(水)22:00

2-5. 個別見学会

下記の日程で個別見学会を実施した。

- ・国立病院機構立川キャンパス
- ・2021 年 11 月 27 日(金) 12 月 7 日(月)

高校生・受験生・保護者を合わせ延べ 35 名が参加。

2-6. 7 月～8 月 来校型 学科見学会(首都圏 看護学科)

【概要】

五反田キャンパス、国立病院機構キャンパス、国立病院機構立川キャンパス、船橋キャンパスにて、2021 年度入試結果と 2022 年度入試の最新情報について

【参加対象者】

- ・本学の首都圏 看護学科に関心のある高校生または、既卒生。
- ・ご家族に付き添いは 1 名以内でお願いいたします。保護者の方のみのご参加はご遠慮ください。

※本イベントは事前予約制となっております。予約なしの当日のご参加はできません。

※来学の際は必ず不織布マスクの着用をお願い致します。

【実施日時】2021 年 8 月 6 日(金)10:00 ～ 11:00

【コンテンツ(各学科)】

- ・ 学科説明
- ・ 2021 年度入試結果&2022 年度入試概要説明
- ・ 看護学科説明
- ・ キャンパス見学ツアー

2-7. 9 月～10 月・WEB 版入試説明会～学校推薦型選抜～(首都圏 看護学科)

【概要】

総合型選抜・学校推薦型選抜の受験を希望されている方向けに、自己推薦書、小論文、面接のポイントや出題方法などについてご説明を致します。今後の入試に役立つ情報をお話しますのでぜひご参加ください。

【申込期間】

(学校推薦型選抜)2021 年 9 月 17 日(金)12:00～10 月 31 日(日)12:00

※定員になり次第、受付を終了致します。

【配信期間】2021 年 9 月 21 日(火)12:00～2021 年 11 月 5 日(金)12:00

【コンテン】

- ・ 学科説明
- ・ 入試概要説明 & 学校推薦型選抜のポイントについて
- ・ キャンパス紹介
- ・ その他

2-8. 来校型 入試説明会～学校推薦型選抜～(首都圏 看護学科)

【概要】

学校推薦型選抜の受験予定者向けに小論文/面接/自己推薦書などのポイントをお話し致します。

【参加対象者】

2022 年度入試を検討されている高校 3 年生が対象となります。

WEB ライブ配信で実施致します。

【来場時に注意事項】

新型コロナウイルス感染拡大のため、当日はご自宅にて、参加される方全員の検温と健康チェックを行い、体調がすぐれない方や、体温37.5℃以上の方は来校をお控えください。また、会場では検温・手指消毒のご協力をお願いしています。

【日時】2021 年 10 月 10 日(日)

【実施時間】① 9:30～ ② 13:30～

【コンテンツ】

- ・学科説明
- ・入試概要説明&学校推薦型選抜のポイントについて
- ・キャンパス紹介
- ・その他

2-9. 12 月 来校型学科見学会(首都圏 看護学科)

【概要】

五反田キャンパス、国立病院機構キャンパス、国立病院機構立川キャンパス、船橋キャンパスにて、2021 年度入試結果と 2022 年度入試の最新情報について

【実施日時】2021 年 12 月 10 日(金)16:30 ～ 17:30

【コンテンツ(各学科)】

- ・学科紹介：大学での学習内容や看護学科の概要や特長を説明します。
- ・学内見学：実習室や図書館、学生ホールなどを案内します。
- ・入試説明：入試概要、昨年度入試結果についてご説明します

※見学会終了後の質疑応答も受け付けます。

【来場時に注意事項】

新型コロナウイルス感染拡大のため、当日はご自宅にて、参加される方全員の検温と健康チェックを行い、体調がすぐれない方や、体温37.5℃以上の方は来校をお控えください。また、会場では検温・手指消毒のご協力をお願いしています。

2-10 . WEB 入試説明会～一般選抜～ご案内(首都圏)

東京医療保健大学では、【一般選抜に受験】を検討しているみなさんに向け、WEB にて入試説明会を実施いたします。受験生はもちろん、高校 2 年生の方も是非ご参加ください。

【コンテンツ】

- ・看護学科説明
- ・入試概要説明（一般選抜）出願手続きについて
- ・科目別対策講座
- ・学生からのメッセージ（受験体験談・大学生活について）

【公開日時】2021 年 12 月 7 日(火)12:00 ～ 2022 年 2 月 17 日(木)22:00

※参加者数 374 名(そのうち 86 名が立川看護学部志望)

2-11. 春のオープンキャンパス

国立病院機構立川キャンパス 立川看護学部～Live 型・Web 型ハイブリット
2022 年 3 月 26 日(日)9:30～16:00(9:30～12:00、13:30～16:00 の 2 回)

【コンテンツ】

- ・学部長挨拶
- ・学部学科・キャンパスライフ紹介

- ・国歌試験対策と就職サポート
- ・2022 年度入試結果速報（総合型選抜、学校型選抜）＆入試概要説明
- ・在学生メッセージ
- ・見る看護体験
- ・看護師のキャリアについて
- ・質疑応答
- ・キャンパス紹介
- ・入試に関する個別相談

※高校生・受験生・保護者を合わせ延べ 67 名が参加。

2-12. 公開講座(立川市と共催)等の開催(FD 企画を含む)

- ① 2021 年 6 月 21 日(月)16:30 ～ 17:30 第二別館 2 階 T2201 or Zoom
 - 対象者：全教職員
 - テーマ:「変革に時代に適応するための急性期病院の取り組み・課題」
 - 講師: 亀山周二学長: 東京医療保健大学(前 NTT 東日本関東病院 院長)
 - 場所: 第二別館 2 階 T2201 or Zoom
- ② 2021 年 8 月 26 日 (月) 10:00 ～ 15:00 T2101 教室
 - プログラム：夏休みの企画：「アロマを使った石鹸づくり」
 - 対象者：小学生と保護者 30 名限定
- ③ 2021 年 9 月 11 日(日) 10:00 ～ 12:15 T2201 教室
 - 対象者: 20 歳代～40 歳代を中心とした立川市在住者(来場は 50 名程度)
(オンラインは全ての人が対象)
 - テーマ:「コロナ疲れとの上手なつきあい方 ～健やかな睡眠へのいざない～」
 - 講師: 田野 将尊: 東京医療保健大学 准教授
小川 賀恵: 東京医療保健大学 助教
 - 形式: 対面・オンラインのハイブリット。YouTube でオンデマンド

2-13. 学友会活動

1) スポーツ大会

学友会の全学行事である、スポーツ大会が 6 月 24 日(木)に、駒沢オリンピック公園総合運動場体育館で予定されていたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、中止となった。

2) 大学祭(医愛祭)

全学行事である医愛祭が 11 月 6 日(土)・7 日(日)に世田谷キャンパスで予定されていたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、中止となった。

3. 入試状況

3-1. 2023 年度入学者選抜状況

概 要

立川看護学部看護学科については、入学者選抜の概略は以下のとおりである。

(2022 年 3 月 31 日現在)

試験区分	試験日	定員(A)		志願者数(B)		受験者数(C)		競争倍率 C/D		合格者数(D)		入学予定者数	
指定校推薦入試	11月14日(日)	(20)	20	(32)	22	(32)	22	(1.0)	1.0	(32)	22	(32)	22
公募制推薦入試	11月14日(日)	(23)	23	(63)	49	(63)	49	(1.9)	1.2	(34)	41	(34)	41
大学入学共通テスト 利用入試(前期)	1月15日(土) 16日(日)	(7)	7	(170)	158	(170)	158	(2.8)	3.2	(60)	49	(4)	6
一般選抜A日程入試	1月25日(火)	(15)	15	(161)	175	(157)	168	(2.5)	2.6	(62)	64	(21)	20
一般選抜B日程入試	2月4日(金)	(25)	25	(223)	237	(186)	201	(2.3)	3.5	(82)	57	(28)	23
一般選抜C日程入試	2月18日(金)	(10)	10	(74)	104	(61)	86	(5.5)	7.2	(11)	12	(4)	2
大学入学共通テスト 利用入試(後期)	1月15日(土) 16日(日)	若干 名	若干 名	(10)	5	(10)	5	(5.0)	2.5	(2)	2	(0)	0
		(100)	100	(733)	750	(679)	689	(2.4)	2.8	(283)	247	(123)	114

○ 学校推薦型選抜入試

1) 指定校推薦入試

(1) 対象

本学を第一志望する(専願)とし、下記①と②に該当する者

①2022 年 3 月に高等学校卒業見込みで、高等学校長の推薦がある者

②高等学校における全体の評定平均値が3. 8以上の者

(2) 選抜方法

調査書(点)・総合問題(点)・面接(点)を総合的に評価し選抜した

2) 公募制推薦入試

(1) 対象

本学を第一志望する(専願)とし、下記①と②に該当する者

①2021 年 3 月に高等学校卒業見込みで、高等学校長の推薦がある者

②高等学校における全体の評定平均値が3. 5以上の者

(2)選抜方法

総合問題(点)・面接(点)・調査書(点)を総合的に評価し選抜した。

注:来年度以降の立川看護学部における学校推薦型選抜の選考方法について、一部変更する。

小論文(100 点)・面接(30 点)・調査書(20 点)を総合的に評価する。

○ 一般選抜型入試

1)一般入学試験 A日程

(1)試験科目

必須科目 英語(100 点)

選択科目 数学Ⅰ・数学A、生物基礎・生物、化学基礎・化学
生物基礎・化学基礎の4科目から1科目選択(100 点)

2)一般入学試験 (B日程・C日程)

B日程(1)試験科目

必須科目 英語(100 点)

選択科目 国語総合【現代文のみ】、数学Ⅰ・数学A、生物基礎・生物
化学基礎・化学、生物基礎・化学基礎の5科目から2科目選択
(各 100 点)

C日程(2)試験科目

必須科目 英語(100 点)

選択科目 国語総合【現代文のみ】、数学Ⅰ・数学A、生物基礎・生物
化学基礎・化学、生物基礎・化学基礎の5科目から1科目選択
(各 100 点)調査書

3)大学入学共通テスト利用入学試験 前期・後期

(1)試験科目

必須科目 英語【リスニングを含む】(200 点)

選択科目 国語【近代以降の文章】、数学Ⅰ・数学A、生物、化学、
生物基礎・化学基礎の5科目から2科目利用
(100 点)

注:選択科目で3科目以上受験している場合は、高得点の2科目を採用
理科を2科目選択する場合は、「生物」「化学」の組合せのみ可

4. 教職員名簿(2021.4.1 現在)

専任教員	担当領域	氏名	職名	採用等年次
東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東	立川看護学部長	山西 文子	副学長/教授	H 25.4.1 採用
	看護基盤学	高木 晴良	准教授	H 26.4.1 採用
	基礎看護学	堀田 昇吾	講師	H 25.7.1 採用
		今井 淳子	助教	H 30.4.1 採用
		三浦 由紀子	助教	H 28.4.1 採用
		松谷 弘子	教授	R 3.4.1 採用
		岩満 裕子	准教授	H 26.4.1 採用
		菅野 由貴子	講師	R 3.4.1 採用
		松山 妙子	助教	H 29.6.1 採用
		山田 泰子	助教	H 29.4.1 採用
		大場 久美	助手	H 31.4.1 採用
		成人・老年看護学	青木 和恵	教授
	小児看護学	内藤 亜由美	准教授	R 3.4.1 採用
		藤村 朗子	准教授	H 27.4.1 採用
		岩渕 起江	講師	H 24.4.1 採用
		櫻井 敬子	講師	H 29.4.1 採用
		折元 美雪	助教	H 28.4.1 採用
		荏田 明子	助教	H 29.4.1 採用
		泥谷 朋子	助手	R 2.4.1 採用
		久保 恭子	教授	H 28.4.1 採用
母性看護学	宍戸 路佳	講師	H 31.4.1 採用	
	衣川 さえ子	教授	H 29.4.1 採用	
	黒澤 範子	講師	H 29.4.1 採用	
	吉田 亜希子	助教	H 27.4.1 採用	
精神看護学	村松 仁	教授	H 31.4.1 採用	
	田野 将尊	講師	H 27.4.1 採用	
	小川 賀恵	助手	H 31.4.1 採用	
在宅看護学	桜井 礼子	教授	H 27.4.1 採用	
	テイラー 栄子	講師	H 29.4.1 採用	
	吉川 加奈子	助教	R 2.4.1 採用	

注:「東」は東が丘・立川看護学部専任、無印は立川看護学部と東が丘・立川看護学部の兼任

事務職員	役職	氏名
	部長	利光 重信
	部長代理	内田 智明
	主任	上山 淳
	職員	細井 智世
	職員	大隈 瑠美
	図書館司書	町田 玲彦
	図書館司書	長坂 由美
	図書館司書	伊藤 梓
	図書館司書	宮崎 千晶
	保健室・相談室担当	原田 直美
	保健室	清水 容子

5. 委員会活動

自己点検・評価委員会

構成員

高木晴良(委員長)、久保恭子(副委員長)、テイラー栄子、吉田亜希子、内田智明

活動内容

2021 年度自己点検・評価報告書の作成を行った。

また、2020 年度の年報を編集・作成し、WEB ページからアクセスできるように公開した。

http://www.thcu.ac.jp/faculty/tachikawa/pdf/index/tachikawa-annual_2020.pdf

FD委員会

構成員

高木晴良(委員長)、久保恭子(副委員長)、テイラー栄子、吉田亜希子、内田智明

活動内容

以下のFD企画を企画・開催・広報した。

【第1回】

講 師：山西 文子 学部長・副学長

テーマ：立川看護学部開設にあたり、教員に望むこと

日 時：4 月 13 日(火) 15 時～16 時

場 所：Zoom 上で開催

参加者：教授 5 名、准教授 3 名、講師 5 名、助教 5 名、助手 1 名、非常勤 1 名
事務系 2 名

【第1回 追加開催】

講 師：山西 文子 学部長・副学長

テーマ：立川看護学部開設にあたり、教員に望むこと

日 時：4 月 16 日(金) 15 時～

場 所：第2別館2階 T2201

対象者：第1回に参加できなかった教員

参加者：教授 2 名、准教授 2 名、講師 2 名、助教 3 名、助手 1 名

【第2回】

講 師：亀山 周二 学長(前 NTT 東日本関東病院 院長)

テーマ：変革の時代に適応するための急性期病院の取組み・課題

日 時：6 月 21 日(月) 16 時 30 分～17 時 45 分

場 所：第2別館2階 T2201

対象者：全教職員

参加者：教授 6 名、准教授 4 名、講師 7 名、助教 8 名、助手 2 名、非常勤 1 名
事務系 1 名

【第3回】(東が丘と共同開催)

講 師 : 大学院看護学研究科長 大島久二 教授

テーマ : 研究公正について

日 時 : 6 月 24 日(木) 16 時 00 分～17 時 00 分

場 所 : Zoom 上で開催

参加者 : (立川看護学部関係)教員 29 名

【第 4 回】(東が丘と共同開催)

講 師 : 大学院看護学研究科長 大島久二 教授

テーマ : 研究倫理ー研究倫理の原点と最新のガイドライン

日 時 : 9 月 16 日(木) 16 時 00 分～17 時 00 分

場 所 : Zoom 上で開催

参加者 : (立川看護学部関係)教員 25 名

【第 5 回】(東が丘と共同開催)

講 師 : 大学院看護学研究科長 大島久二 教授

テーマ : ガイドラインの解釈と本学での申請

日 時 : 10 月 28 日(木) 16 時 00 分～17 時 00 分

場 所 : Zoom 上で開催

参加者 : (立川看護学部関係)教員 24 名

【全学 FD 企画】

講 師 : 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

トランスレーショナル・メディカルセンター

臨床研究支援部 倫理相談・教育研修室 室長

有江 文栄(アリエ フミエ)氏

テーマ : 「公正な研究活動のために研究者が知っておくこと、気をつけること」

日 時 : 9 月 21 日(水) 16 時 30 分～18 時 00 分

場 所 : Zoom 上で開催

なお、第 2 回 FD 企画に関して、FD 委員会の作成した記事が「THCU トピックス 55 号」(7 月 30 日発行)に掲載された。

入試委員会

構成員

構成員は非公開としている。

活動内容

立川看護学部の入学試験に係る事項について協議・審議し、試験の円滑な実施を図った。

カリキュラム検討委員会

構成員

桜井 礼子（委員長）、高木 晴良（副委員長）、青木 和恵、衣川 さえ子、久保 恭子、松谷 弘子、村松 仁、山西 文子、利光 重雄、井上 里美、大隈 瑠美（～2022.1）、知識 比呂美（2022.1～）

活動内容

本委員会は、教育の質向上を目指し年間実施計画に基づき活動を行った。
2021 年度も COVID-19 の影響により、対面授業は、前期は「レベル 4」、後期は「レベル 3」、11 月から「レベル 2」、1 月から再度「レベル 3」となった。その都度、授業形態（対面または Zoom）の変更と時間割の調整が行われたが、予定のカリキュラムは終了することができた。成績評価については、試験は対面を基本とし、感染者または濃厚接触者には出席停止期間も学生の不利益とならないよう学習支援等の対応を行った。1～3 年次生の進級、および 4 年次生の卒業の判定については、進級および卒業要件に従い確認を行った。

教育環境の整備では、感染対策のための各教室の環境整備、ICT 授業ツール等の整備が行われ、実習室は WG メンバーを中心に整備が行われた。

次年度に向けて、各領域から授業評価の報告およびアクションプランの目標等について検討を行った。さらに、2022 年度から実施の新カリキュラムの準備として、履修案内の見直し、実習検討委員会と連携し看護技術経験表の見直し、看護技術項目の進度表の見直しを実施、次年度から新たな科目や授業内容について教員間での情報を共有した。

実習検討委員会

構成員

藤村朗子（委員長）、田野将尊（副委員長）、久保恭子、桜井礼子、岩渕起江、穴戸路佳、堀田昇吾、松山妙子、三浦由紀子、吉田亜希子、利光重信（事務部）、内田智明（事務部）、細井智世（事務部）

活動内容

本委員会は、東が丘・立川看護学部（災害看護学コース）および立川看護学部の教育の質向上に向け、看護学実習指導体制の整備に関する以下の活動を実施した。

1. 看護学実習計画

2020 年度、2021 年度の実習計画を策定した。本年度 COVID-19 により実習形態の変更が生じたため、各領域の実習実施状況について共有を図った。

2. 看護学実習施設に対する説明会

COVID-19 により開催を中止し、「立川看護学部開設のご案内」を各施設に郵送した。

3. 看護学実習連携会議

災害医療センター、村山医療センター、共済立川病院のワーキンググループメンバーと共同し、第 40 回日本看護科学学会学術集会にて発表・交流集会を実施した。

4. インシデント対策

看護学実習のインシデントは1件であり、患者に直接的な影響がなかった。

5. 看護技術経験表

2020年度卒業生97名を対象に178項目の看護技術の修得・経験状況を集計した。各領域で到達度向上に取り組んだ結果、到達度低水準項目（60%未満）は14項目から6項目に減少した。また、次年度の内容を検討し、2項目の削除、ポートフォリオの追加を行うこととした。

学生生活支援委員会

構成員

村松 仁（委員長）・藤村朗子（副委員長）・岩淵起江・黒澤範子・櫻井敬子・荻田明子・小川賀恵・山田泰子・利光重信（事務部）・内田智明（事務部）・大隈瑠美（事務部）・清水容子（保健室）

活動内容

委員会が担当する業務として、保健室担当者との情報共有、コンタクトグループミーティングの企画運営、卒業関連事業への支援、学籍変更に関する対応を中心に行った。特に、今年度に引き続きCOVID-19の対応として新入生合宿研修、大学祭（医愛祭）、スポーツ大会、サマーコンサートが中止となり、対面での学生間の交流や学生が主体的に活動する機会の確保が課題となった。そこで、学生間の交流促進を促すために、例年行ってきたコンタクトグループミーティングを4月と12月に、感染対策を十分に講じた上で対面を基本として実施した。コンタクトグループミーティングに対するアンケートでは、8割以上の学生が交流が持てた、情報共有ができたとの回答があり、学生間の交流促進に役立ったと考えられた。次年度以降も引き続きコンタクトグループミーティングを行い、運営方法も検討しながら学生間の交流促進に寄与できる運営を考えている。卒業関連事業への支援としては、同窓会委員の選出、卒業アルバム委員、卒業を祝う会委員を選出した。

国家・就職対策支援委員会

構成員

岩満裕子（委員長）、内藤亜由美（副委員長）、高木晴良、田野将尊、櫻井敬子、黒澤範子、、菅野由貴子、今井淳子、吉川加奈子、利光重信、内田智明、井上里美、細井智世

活動内容

国試に関する目標は、「看護師国家試験全員合格」とし、就職においては、就職・進学率100%を目指し、企画・実施した。

1) 国試対策支援

1 年次から各学年担当者が国試を意識できるために、ガイダンス及び Web 模試を実施した。

3 年次生には、今年度の国家試験を Web にて実施した。4 年次生には、Webを含めた業

者模擬試験を6回実施し、必須対策として委員で作成した問題を150本ノックとして実施。12月の教員による補講、ゼミによる支援、国試対策問題提示解説のメール配信、Zoomでの弱点分野の講義等を実施。学習強化が必要な学生は委員の個別指導で対応した。既卒者へも該当するゼミと委員会で支援した。

2) 就職対策支援

昨年同様に支援講座は継続し、特にZoomによるメイクアップ講座は学生に好評であった。

病院見学が実施されていない状況において、Zoomによる卒業生との懇談会は、学生が希望する病院に就職した卒業生から情報を得られる場となった。次年度は卒業後の支援を見据え、今年度は既卒者がアクセスできるアドレスを頂いたもので、活用し、卒業生の声を聴き、支援体制を検討していく。

図書委員会

構成員

松谷弘子(委員長)、衣川さえ子(副委員長)、村松 仁、テイラー栄子

司 書: 町田玲彦、伊藤 梓

活動内容

COVID-19 感染症対策の中、図書館の開館時間、休館日の変更等を図書館ホームページ上で公開するなど、利用者、特に学生への利便性の向上を視野に入れた活動に勤めた。

- 1) 図書委員会予算にて、国試・就職対策支援委員会へ看護師国家試験問題集の購入、及び関連図書の補充を行った。

- 2) 図書の除籍・廃棄

立川図書館における除籍・廃棄の該当書籍について全教職員の引き取り希望を調査し、旧版等を見直し、新規導入図書のための配架スペースを確保した。

- 3) 月次報告の作成

立川図書館における月次統計として、利用実績および契約データベースへのアクセス状況を月次報告として取りまとめた。

- 4) Web 会議、メール稟議等の実施

COVID-19 感染症対策の中、可能な限りメール会議、Web 会議として実施し、効率的な委員会活動とした。

広報・情報ネットワーク委員会

構成員

青木和恵(委員長)、田野将尊(副委員長)、宍戸路佳、今井淳子、折元美雪、山田泰子、

利光重信(事務部)、細井智世(事務部)

活動内容

本委員会は、東が丘・立川看護学部(災害看護学コース)および立川看護学部の広報活動の充実を図ることを目的とし、以下の活動を実施した。

1. 大学案内

- 1) 2023 年度版大学案内の作成
2. オープンキャンパス・入試説明会・個別相談
 - ・ COVID-19 への感染予防対策を徹底し以下の活動を実施した。
 - 1) 来校型・Live 型・Web 型オープンキャンパスの企画・開催
 - 2) 来校型・Web 型ミニオープンキャンパスの企画・開催 (2 回)
 - 3) 新年度受験生対象春のオープンキャンパスの企画・開催
 - 4) 学校推薦型入試説明会の開催および一般選抜型入試説明会の Web 開催
 - 5) 個別見学会の開催 (3 回)
 - 6) Web 型オープンキャンパスのコンテンツ作成
 - 7) Web 型高校教員対象大学説明会のコンテンツ作成
3. 出張講義
 - 1) 拓殖大学第一高等学校にて実施
4. その他
 - 1) 学報「こころ」の発行による教育活動や学生支援の PR 活動
 - 2) 立川市との共催イベントや学生消防団活動の周知による立川看護学部の PR 活動
 - 3) 新宿セミナー情報誌『PROGRESS』への在校生記事への協力
 - 4) リクルート卒業生キャリアアップ記事への卒業生記事への協力

6. 教育活動

立川看護学部 の科目（1. 2 年次生）は、科目名の後に（立川）と明記して区別した。

【看護基盤学領域】

教育方針

看護基盤学領域は、将来看護師となる人として必要な教養、知識のみならず、学際的な広い視野に立った物の見方を学ぶために重要な分野の教育を担当している。看護学以外の視点も重要視し、人間の生命を自然科学的、倫理的、あるいは社会学的等、多面的な側面より論じる能力を有する看護師育成を目指している。さらに社会医学分野の講義や臨床検査学演習等を通じて、スキルミックスやチーム医療の重要性を教授することにも力点を置いている。

本年も、コロナ禍での教授となったため、昨年度の経験を基に、対面と遠隔リアルタイム講義を双方のメリットを生かした講義形式で行った。

1) 自然科学の基礎（立川）： 1 年次前期 （リアルタイム遠隔講義）

高木晴良、堀田昇吾、今井淳子

専門基礎分野、専門分野における高度な専門科目を履修するために必須である生物、化学、物理、数学等に関する基礎的な知識を学習することを目的とした。入学時点で、学生によって各内容の理解度に大きな差があるため、基礎的な内容を含むようにし、動画等を利用して理解しやすいように工夫した。また、学生の個別の質問に応じ、全学生が最低限の必要知識を得られるように対応した。次年度も学生間で知識の差があると予想されるため、学生には予習および復習を促し、授業で使用するスライドはよりわかりやすいものとなるよう工夫し、高度な専門科目に対応できるような知識の習得を目指している。

2) 公衆衛生学（立川）： 2 年次前期 （リアルタイム遠隔講義）

高木晴良、堀田昇吾、三浦由紀子

わが国の保健統計指標の動向や意義、疾病予防、健康の維持増進、健康管理、産業保健、環境衛生に関する事項のほか、食品衛生や感染症の予防など衛生学の基礎知識に関する内容も含んでいる。また、環境と生活者の健康の観点から、環境汚染及び職業性疾患とその対策なども取り上げた。

公衆衛生の理念と目的、集団における健康問題に関する予防医学、社会医学の役割と実際について学修することを目的とし講義を行った。

毎回 WebClass で課題を提示し、ミニレポートを提出させることで、学生の理解度を確認するとともに、疑問点などについて質問しやすい環境を提供した。レポートの文字数を提示し、さらに提出期間として数日間の期間を設定したため、過去の講義直後のミニレポート提出に比べて、自分で興味ある点を調べたものを記載した、内容の濃いレポートが多く見られた。なお、質問の返信やレポート内容の訂正等を WebClass の返信機能で対応したの

で、学生からも分かりやすいと好評であった。

今年は、対面でWebClassを用いた試験を行った。試験自体もスムーズであり、学生の解答状況をリアルタイムで確認できる点が優れていた。

3) 医療・看護情報学の基礎（立川）： 2年次前期 （リアルタイム遠隔講義）

高木晴良

「看護職にとっての「情報」とは何なのか」ということを知るだけでなく、その「まもり方」を中心に解説した。「医療・看護情報の特殊性」「病院内の情報ネットワークシステムの種類と導入推移」「情報倫理と医療倫理」「患者の権利を守るために必要な情報の取り扱い」「個人情報とプライバシーの違いと、その保護の方法」の5つテーマについて講義を行った。

毎回WebClassで課題を提示し、ミニレポートを提出させることで、学生の理解度を確認するとともに、疑問点などについて質問しやすい環境を提供した。レポートの文字数を提示し、さらに提出期間として数日間の期間を設定したため、自分で調べ・考える時間ができ、より深い内容のレポートが多く見られた。なお、質問の返信やレポート内容の訂正等をWebClassの機能で対応したので、学生からも分かりやすいと好評であった。

今年度はWebClassを用いて対面で終講試験を行った、試験自体はスムーズであり、学生の解答状況をリアルタイムで確認できる点が優れていた。

4) 災害ボランティア論（立川）： 2年次後期 （リアルタイム遠隔講義＋対面発表会 等）

高木晴良、堀田昇吾、今井淳子、三浦由紀子

ボランティア活動に対する関心が高まり多様なボランティア活動が展開されている。このような現状の中で保健医療の専門職としてボランティア活動に対する理解を深めることが必要である。多様なボランティア活動についての理解を深めると同時に、医療・保健・福祉に関するボランティア活動の事例を通して、専門職としてのスキルを生かしたボランティア活動、ボランティアコーディネーションのあり方等を考察できることを目標とした。

今年度も、コロナ禍の影響で実際のボランティア活動に参加できなかったため、「各グループがそれぞれのテーマの下でボランティア活動の計画を立て、広報担当としてプレゼンをする」という企画を行った。遠隔のグループワークにもかかわらず、主体的に話し合いが行われ、プレゼンの内容も工夫に富んだイベント計画が練られており、学生にも昨年に引き続き好評であった。

5) 臨床検査学演習（立川）： 2年次後期 （対面演習）

高木晴良、堀田昇吾、今井淳子、三浦由紀子、伊東丈夫

臨床検査の意義および基本原理を学ぶとともに、解剖生理や病態に関する理解を深める授業とした。組織学的検査、心電図、呼吸機能検査、超音波検査、血液検査、尿検査、放射線検査、染色体検査、環境測定のそれぞれについて、小グループに分かれ、学内で対面演習を行った。

なお、組織学的検査に関しては、顕微鏡の専門家を学外から非常勤としてお願いしているため、より教育効果の高いプログラムとなっている。本年度から超音波検査演習と環境測定を導入した。超音波検査演習に関しては、エコー検査の基本的理解に加え、看護援助場面でのエコーの活用について教授した。果肉ゼリーを用いエコー画像の見え方を理解した後に、学生自身の血管および膀胱（一部ファントム模型）を描出し、人体の画像の見え方を受講者全員が体験した。環境測定は適切な療養環境条件の確認に加え、災害発生時に避難所等では十分な環境の確保が難しくなる可能性をイメージすることができていたと考える。

6) 臨床薬理学演習（立川）：2年次後期（リアルタイム遠隔講義+対面演習）

高木晴良、堀田昇吾、今井淳子、三浦由紀子

1年次生で得た薬理学の知識をもとに、治療対象となる患者の状況（年齢、性別、生理的狀態など）による薬物動態の知識、作用と薬効について理解させることを目標とした。主に、臨床現場で使用されている薬物の使用目的、作用機序、有害作用・禁忌などについて、随時、解剖生理学や疾病の成立ちの知識を確認しながら概説した。

今年度は対面演習として、「与薬に伴う看護」と「点滴静脈内注射を行っている患者への側管からのワンショット静脈注射をする演習」を実施した。

「与薬に伴う看護」では、特定の抗がん剤と支持療法について学生個人が文献などを元に調べたのち、必要な看護についてグループディスカッションを通して検討した。

「点滴静脈内注射を行っている患者への側管からのワンショット静脈注射をする演習」では、与薬の一連の流れを実施し、患者が安全に安心して薬物治療を受けるために必要な看護について考えさせた。学生は、ダブルチェックの必要性などが身を持って体験できるということで好評だった。

7) 医療・看護論文の講読（立川）：2年次後期（リアルタイム遠隔講義+遠隔GW+遠隔発表会）

高木晴良、堀田昇吾、今井淳子、三浦由紀子

より早いタイミングで、時間をかけて、論文の読み方を身に付けさせるために、実用医療英語を改変し、新しく設定された科目である。

EBNにおける看護研究の意義と論文の種類、構造、検索方法について講義した。また、学生はテーマ別のグループに分かれ、自ら検索・選択した和・英論文を各1本読解し、その内容をグループ内で発表した。さらに、グループ内で発表された論文の中から和・英論文1本ずつ選択し、他のグループ全体へ論文の内容とその評価結果をプレゼンテーションした。

コロナ禍のため、対面でのグループワークやプレゼンテーションはできなかったが、Zoomのブレイクアウト機能を活用して実施した。

多くの学生は論文に初めて触れる機会となったが、他グループのプレゼンテーションに対しても活発な意見交換がみられ、クリティークのポイントを理解することもおおむね達成できていた。

8) 看護研究の基礎：3年次前期（リアルタイム遠隔講義＋遠隔GW＋遠隔発表会）

高木晴良、堀田昇吾、今井淳子、三浦由紀子

E B Nにおける看護研究の意義を理解し、倫理・安全面への配慮も含めた看護研究の進め方について講義した。

看護学における研究の意義・研究で用いる用語・研究方法・倫理的配慮について理解するとともに、論文の種類と構造など基本的な知識を習得することを目的とした。さらに、実際に自分が興味を持ったテーマに沿った和文献をキーワード検索し、グループでクリティークして、その内容を発表するという形式で行った。

昨年度に引き続き、今年度も、コロナ禍のために対面のグループワークができなかったことから、Zoom のブレイクアウトルームを利用して、遠隔でグループワークを行ったが、活発に学生間の意見交換などができていたようである。

9) 実用医療英語：3年次前期（リアルタイム遠隔講義＋遠隔GW＋遠隔発表会）

高木晴良、堀田昇吾、今井淳子、三浦由紀子、酒井一夫

英語論文の構造や医学英語に独特の表現などを理解することで、長文読解能力及び情報収集能力の向上を図るため、グループで英語論文を選択して読解し、その内容を発表するという形式の講義を行った。

「3年後期の卒業研究や英語論文のクリティークの際に役立つような基本的技術（英語論文の検索や長文読解力）が習得できる」ということを目標に、テーマ別のグループに分かれた後で、テーマに沿った論文を自分たちで検索し、グループ内で講読する論文を取捨選択するというプログラムを取り入れている。今年度は和文献で同様の手順で発表を行っていたため、よりスムーズに進行していたようである。「英語論文の構造を理解する」という目標もおおむね達成できていた。

昨年度に引き続き、今年度も、コロナ禍のために対面のグループワークができなかったことから、Zoom のブレイクアウトルームを利用して、遠隔でグループワークを行ったが、活発に学生間の意見交換などができていたようである。

10) 国際看護学：3年次前期（リアルタイム遠隔講義）

高木晴良、堀田昇吾、今井淳子、三浦由紀子、桜井礼子、山田泰子

進展するグローバリゼーションと健康問題との関連、世界の健康問題の現状や課題を知り、医療保健分野での国際協力のあり方や看護の役割機能について多角的に学ぶことを目的としている。グローバルヘルスやリプロダクティブヘルスの現状や国際協力・国際貢献の実際について学習し、今日的な課題について考える内容の講義を行った。

実際の健康問題、SDGs に関連する各国の健康指標を調べてグラフ化したり、国際協力に実際に関わってきた教員の体験をもとにした教材を用いたりしたことで学生の関心が高まり、国際看護を身近なこととして認知し、その将来を考える機会となったようである。

11) 災害看護学Ⅱ：3年次前期（リアルタイム遠隔講義＋対面演習）

高木晴良、堀田昇吾、今井淳子、三浦由紀子、福田淑子、桜井礼子、高以良仁

災害時の防災・減災におけるチーム医療の中での看護師の役割を理解し、災害発生～災害急性期、亜急性期～慢性期、回復～復興期 までの全ての過程での救護活動に必要なスキルや大規模災害時に国際的視野に立った活動ができるスキルを学ぶことを目標とした。さらに、NBC 災害（核（nuclear）、生物（biological）、化学物質（chemical）による特殊災害）に対する基本的知識・技術についても紹介した。

また、対面演習としては、DMAT 隊員による災害現場救護所における対応と二次トリアージに関するシミュレーション演習と避難所運用ゲームであるHUGを実施した。これまでの災害看護に関する知識をベースに演習を行うことで、より実践力育成につながったものと考えている。

12) 英語論文のクリティーク：3年次後期（リアルタイム遠隔講義＋遠隔&対面レポート発表会）

高木晴良、各領域担当教員

卒業研究に向けて、英語の論文を批判的に読むことにより、卒業研究に関連する分野の最新動向を把握すると共に、研究活動における文献調査の意義を理解することが目標である。各領域で、指定された英語論文や各自で検索した論文を精読し、卒業研究グループの中で、抄読会形式の発表と討論を行った。

13) 看護学統合実習：4年次前期

高木晴良、各領域担当教員

本実習は、4年次までに学習した全ての看護学実習の内容や看護マネジメントの学習を統合した実習として位置付けている。看護実践能力の向上、看護を統合的にマネジメントするための基礎的能力の育成、自己コントロールと自己開発への課題の明確化を目的としており、臨地実習（90時間）と災害看護学実習（45時間）からなっている。

臨地実習に入る前に、自己の実習課題を明確にし、実習施設の特徴を理解した上で、各学生は実習計画の立案・実施・評価を行った。臨地実習は4施設で実施した。コロナ禍で、施設ごとに制限はあったが、学生は「複数患者受け持ちによる優先順位の考え方」「看護師長やリーダーによる看護マネジメントの実施方法」「夜間看護の特徴」などについて学べていた。

災害看護学実習は、災害医療センター、立川防災館の2施設で行った。マス・トリアージ、災害時病院初期対応シミュレーション、HUG、災害体験などを実施した。災害医療センターのDMATメンバーから全面協力を得られ、臨場感のある実習になり、災害医療における看護職の役割機能や、各所における責任ある行動及びリーダーシップについて学修することができていた。

14) 卒業研究：3年次後期・4年次前期・後期

山西文子、高木晴良、その他全教員

10名程度のグループごとに、災害に関連する具体的なテーマを設定し、研究計画の立案から成果発表までの一連のプロセスを実践する。卒業研究を通して、臨床現場で行う看護研究のための基本的な方法論を習得することが目的である。

2021年11月3日には、「2021年度卒業研究発表会」を、4年生及び全教員は体育館、3年生はZoomで参加するというハイブリッド形式で開催した。来賓として、村山医療センターの看護部の方にもZoomで参加していただいた。

学内の研究発表会後に学会発表を行うグループも多く、特に「日本学校に在籍する外国人の防災意識に関連する要因」というタイトルで、第27回日本災害医学会総会・学術集会に発表した川鍋奈月さんらのグループは、日本災害医学会から学生表彰を受けた。

各グループのテーマと構成メンバーは以下のとおりである。

◎ COVID-19 パンデミック下における看護学実習での看護学部生の認識に関する研究

有田未侑・飯島晴香・伊藤愛華・押野真優未

北野見優・篠崎杏里・杉浦晴香・竹俣花音

平田のどか・弘世初月・山内楓子

◎ 盲導犬ユーザーが避難所生活を送るために必要な準備態勢の実態

赤津祐希・岡ひかる・熊倉史織・鈴木友親

谷口虹・野村智香・服部裕介・馬場涼奈

藤原未来・山田浩二郎・熊澤妃乃

◎ 豪雨災害による避難生活者の女性特有の健康問題と清潔保持行動の実態

桜庭憂美・足立沙菜・大島望・岡田真奈

河邊彩音・小林可奈・鈴木愛理・西真祈

町田春帆・真船早紀・村上優芽香

◎ 地域型保育事業所保育者の地震対策

野呂唯乃・山村友美子・岡部大星・金津花音

坂上聖奈・志村莉衣・関口遥希・中島万利那

間山晴加・森谷美涼

◎ 災害時個別支援計画に対する認知度とソーシャル・キャピタルとの関連

一避難行動要支援者の家族を対象として一

山下桃花・廣瀬梨風・森結理彩・横瀬幸乃

石村百寧・植野佑美香・谷二千歌・野見山渚

星野希良里・村田未夢乃・若林碧

◎ サージカルマスク着用による表情認知への影響

斎藤虎生・高橋龍佑・高橋克知・齋藤杏奈
米倉秀紀・磯崎莉緒・紅林幸佑・鳥越沙弥
野坂優斗・日比野亮太・松田玲

◎ 手指の消毒の実施と知識・意識の関連 ～避難所での感染予防策の検討～

功刀美柚・網倉優花・伊藤智雅・大槻亜未
小林由依・清水公実子・須田優樹・田中渚彩
中澤舞衣・前川遥南・向山穂乃佳

◎ II型糖尿病患者のセルフケア能力と災害への備えとの関連の検討

芳賀未来・金羽茉椰・能代ろま乃・五日市悠里
井上実穂・木村彩・柴田歩実・白井美月
高亀昌美・高橋未優・玉川愛佳

◎ 日本語学校に在籍する外国人のソーシャル・キャピタルと防災意識の関連

石川優希・川鍋奈月・居上愛・遠藤美帆
川田麻愛・小林優思・小原麻裕・関山みのり
相馬伶奈・土井一真・山敷翔

【基礎看護学領域】

教育方針

新年度よりコロナ禍の中での教育活動であったが、昨年度より引継いだ「健康上の問題を持つ人の基本的ニーズの充足を目指した看護」を理解できることを看護基礎教育の基盤に置き、基礎看護学領域一丸となって、看護学の学習の必要性を理解できる意欲的な学生の育成を目指して取り組んだ。具体的には看護について様々な視点から学び、看護師を目指す構えができることを目標としている。さらに、平時のみならず災害時に必要となる基本的知識も含めた内容を教授する。講義と演習を通して看護行為の意味づけを各自が考え、知識と技術が統合できる教育構造を構築する。臨地実習では振り返りを通して自ら考え、今後の学習の必要性を理解し、学生が看護の視点での観察力と他者理解の重要性が育成できるよう、基礎の各科目と関連づけた思考の構築を目指す継続的な自己学習ができる学生の育成を教育方針とした。

1) 看護学概論（立川）：1年次前期

松谷弘子

看護の初学者が最初に看護を学ぶ科目として、「看護とは何か」を考えるに当たり、看護の歴史、日本における健康に関する認識と医療の変化・発展、及び法律を含めた政策の変化など時代の流れの中で、理解することを通して考えられるよう講義内容を構築した。看護の基本概念である「人間、健康、環境とは何か」について、ナイチンゲールとヘンダーソンを中心とした考え方やその理論家の生きた時代背景を含め、看護の変遷が理解できるように講義した。ヘンダーソンに関しては、看護過程展開時に繋げられるように教授した。看護の喜びが感じられるように具体的な事例も含めるとともに、平常時と災害時の違いも含め講義内容を構築した。

2) 看護倫理（立川）：1年後期

岩満裕子

倫理的問題は、1年生には何が倫理的問題なのかを理解することが困難である為、身の回りで起きている事象を取り上げ、事例を中心に倫理的問題とは何かが理解できるよう教授した。倫理的問題を理解したうえで、基本である世界医学界宣言と看護師の倫理綱領の内容が理解できるよう読み砕き、倫理観が深められるように実施した。医療倫理に関しては、トム・L・ビーチャムらの記した「生命医学倫理」を活用し、事例を取り上げ倫理的問題がどこにあるか考える時間とした。倫理的問題の解決法としては分析ツール（JONSENの窓、4ステップモデル）を説明し、実際に事例分析を個人で検討後、医療における倫理的問題の検討すべき視点を教授した。最後は、災害時に起こりうる倫理的問題として考えられる事項とその対策についてグループワークを実施した。最終レポートとして、コロナ情勢も含めた身の回りの倫理的問題とそれに対する判断を明示することを課題とし評価した。次年度も、医療における倫理的課題の事例を読み砕くことで理解できるように教授し、倫理問題を検討するための看護倫理の視点教育を実施する。

3) 看護実践技術論Ⅰ（日常生活における援助技術と判断）（立川）：1年前期

菅野由貴子、松谷弘子、岩満裕子、松山妙子、大場久美

本科目の目標は科学的根拠に基づく看護技術の基本的な知識や特徴を理解し、さまざまな状況にある人間の生活過程を整えるために必要な看護技術を学ぶことにある。看護実践において、対象の日常生活にかかわるニーズを判断し、人間の尊厳や権利の擁護、安全・安楽に配慮しながら、援助を実施するための基本的知識・技術・態度を学習することを目的とした。新型コロナウイルス感染症対策の中で、実技演習を重視する本科目では感染対策を講じながら可能な限り対面形式での演習の機会を確保した。演習では事前に講義の復習とナーシングスキルの視聴、技術の手順の根拠や留意点について自己学習を行い、技術内容を具体的にイメージしやすいよう動画等を提示した。演習実施時の教員デモンストレーションは密集回避のため、複数箇所で行う等の工夫をした。講義、演習ともグルー

プワークを活用し、他者の意見、考え方への気づき、自己の行動の客観視を得られる機会を作り、学生相互で学びを補完し振り返りながら学びを整理できるよう図った。実技演習ができなかった技術については、技術補講等を行い、経験と学びの機会を確保した。

4) 看護実践技術論Ⅱ（治療・処置における援助技術と判断）（立川）：1年後期

岩満裕子、松山妙子、松谷弘子、菅野由貴子、大場久美

治療・処置における援助技術は、看護専門職としての自律的判断を要し、より高い倫理性と正確性、安全性が求められる。そのため、講義では診療の補助の意義と看護技術を提供するために必要な知識・技術・態度について教授し、演習では講義で得た知識を活用して根拠を明記した手順書を作成してから実践できるような構成とした。COVID-19 感染拡大による制限もあったことから、実際に使用する物品を用いて演習と同様の環境設定下で撮影した動画教材を作成し、演習での学習効果を高める支援を行った。演習中はグループワークを取り入れながら、グループでの検討内容を発表し、思考の幅を広げながら統合できるよう工夫し、学生の自律的な学習の支援を行った。

5) 看護実践技術論Ⅲ（看護技術の統合）（立川）：1年後期

松谷弘子、岩満裕子、菅野由貴子、松山妙子、大場久美

さまざまな状況にある人間の生活過程を整えるために、対象の日常生活に関わるニーズを判断し、対象の個別性に応じ、既習の日常生活援助に関する知識や技術を統合・活用して、最善の看護を実践する意義と方法を学ぶことを学習目標とした。

講義の前半は、遠隔授業で知識を深め、演習では事前にナースィングスキルの視聴、技術の手順の根拠や留意点について自己学習を行い、グループでディスカッションを行いながら知識と技術の学習を深めた。講義後半はグループワークを通して、患者の個別性に配慮した援助について学ぶために、看護過程と看護方法論での学習到達状況を考慮した事例を提示し、援助計画の検討、援助の実施を行った。実施後は、自らの援助計画とその実施の評価を担当教員と共に具体的に振り返ることで、個々の技術の提供ではなく、技術の統合の大切さ、患者の反応を捉えることや援助を評価することの意義を学び得ていた。次年度以降も、日常生活援助の知識と技術を統合する力と、対象の個別性に応じた援助方法の実施とその意義の習得に向けて、講義・演習内容を検討していく。

6) ヘルスアセスメント（立川）：1年前期

岩満裕子、松谷弘子、菅野由貴子、松山妙子、大場久美

対象の健康問題を把握するために必要な基本的看護技術となる観察、コミュニケーションの基本技術、バイタルサイン測定を習得する講義・演習であるがコロナの状況で実施できない部分は、ナースィングスキルを活用し、画像によるイメージトレーニングと補足説明、復習機能も活用し教授した。登校できるようになった段階で、他の演習講義時間を活用し、血圧測定を盛り込んで実施したが、登校日が確保できず、自己練習時間の確保は困難であったため、日常生活援助実習で学内実習者には練習時間を確保した。コミュニケーション演習も

学内実習にて模擬患者演習を取り入れ、教授した。バイタルサインから判断する看護援助の演習では、主観的情報と客観的情報による視点も含め教授した。次年度は、形骸的なバイタルサイン測定にならないように根拠と目的を理解し、実習につなげられるように測定後の報告内容を網羅した今年度コロナで実施できなかった予定していた演習を実施する。

7) フィジカル・アセスメント (立川)：1年後期

岩満裕子、松谷弘子、菅野由貴子、松山妙子、大場久美

今年度は、フィジカル・アセスメントのDVDを作成し、講義で視聴させ、イメージして講義を受ける流れで実施した。看護判断する上で最も基本となる看護師として必要なフィジカル・アセスメントの知識と技術について、運動系・感覚系・中枢神経系・循環器系それぞれ系統別に教授し、具体的な臨床でよく見る疾患の特性を重視するとともに、国試対策も見据えて講義内容を構築した。更に、臨床現場ですぐに必要な知識と技術を中心に講義内容を組み立てると共に、肺と心音の聴診についてはモデル人形の肺音と心音を用いて演習を実施した。災害時や急変時の対応についてもグループで検討後、実際に場面設定し、演習にて教授した。次年度は、今年度同様に実施するが、疾患を持った患者を総合的に観る視点が体得しにくい学生が多いことが実習を通し、判断できたので、実習で役立つ系統別だけではなく、統合的に捉えたフィジカルも取り入れた教育内容とする。

8) 看護過程と看護方法論 (立川)：1年次後期

菅野由貴子、松谷弘子、岩満裕子、松山妙子、大場久美

看護の対象となる人々の個別性や状況に応じ、専門的な知識を用いて看護を実践するための方法である看護過程について、その概要と意義を理解し、看護実践における看護過程の展開に必要な基本的な知識・技術等を教授した。コロナ感染対策のため、講義はオンライン授業中心に、グループワークを活用し、個人・グループで課題に取り組むことで学生相互に疑問の明確化、相互学習の効果を図った。グループで事例を検討することにより一人で考える時には気づけなかったことを相互学習し、教員の指導内容を共有する機会とした。各回の講義は提出課題のフィードバック、小テストを行い、学生の不明点を確認しながら進めた。看護過程を展開し立案した看護計画は、看護実践技術論Ⅲと連携し看護技術の統合として実技演習を実施することで、具体的な反応を実施記録として記述する経験を持てるようにした。まとめは対面でグループワーク発表を実施し、学びの共有、看護の多様性を意識できるようにした。使用する記録用紙は、日常生活援助展開実習で用いる書式を使用し、実習への関心や動機づけとし、実習に向け主体的に学習することを図った。

9) 看護学体験実習 (立川)：1年次前期

松谷弘子、岩満裕子、菅野由貴子、松山妙子、大場久美

座学で学んだことを実際の医療機関で見学実習を通し医療機関の理解を深める実習であるが、コロナの影響により病棟実習が実施できなかったため、Zoomによる学習となった。事前に、実習病院である国立病院機構災害医療センターと国立病院機構村山医療セン

ターの看護部の協力を得て、ビデオ撮影し、医療施設がどのような機能を保有し、如何なる能力を持った職員が、患者に何を提供しているのか、病院の機能と形態について録画および Zoom での講話を頂き、病院組織の理解が深まり、病院は様々な専門職種の人たちの力で成り立っていることを学ぶ機会とした。更に、学生同士で感じたことを話し合う場を持つことでお互いに理解を共有できるよう実施した。次年度は、更に、実習施設側と目標の共通理解を深める検討の機会を持ち、病院という環境への理解が深まると共に、今後の実習に役立つ知識や看護師を目指す意欲に繋がる実習とする。

10) 日常生活援助展開実習（立川）：1 年次後期

松谷弘子、岩満裕子、菅野由貴子、松山妙子、大場久美、堀田省吾、今井淳子、小川賀恵、折元美雪、荏田明子、三浦由紀子、吉田亜希子、吉川加奈子、泥谷朋子

コロナの影響で国立病院機構災害医療センターでの実習病棟が減ったために、急遽国家公務員共済連合会立川病院にも実習病棟として依頼した。しかし、両施設ともコロナ感染拡大により実習が行えなくなった。国立病院機構村山医療センターは学生の実習を受け入れて頂けたため、国立病院機構村山医療センターの学生のみ臨地実習を行い、それ以外の学生は学内実習に切り替えて実施した。国立病院機構村山医療センターでは、計画通りに学生は5日間で患者とのコミュニケーションや看護ケアを実践する中で様々な学びを得ることができた。また、学内実習では、DVD 教材を活用して看護計画・実施・評価を行ったり、模擬患者を設定して実際に看護ケアの実施を通して、自己のケアの振り返りを行ったりして学びを深めることができた。記録に関する個別指導時間が確保できたことにより、思考が深まったという利点もあった。

COVID-19 感染症対策により実習方法の変更が生じることが考えられるため、知識と技術の統合や実際の看護ケアをリフレクションできるように検討していく必要がある。

11) 看護過程展開実習（立川）：2 年次前期

松谷弘子、岩満裕子、菅野由貴子、松山妙子、大場久美、大場久美、内藤亜由美、今井淳子、小川賀恵、荏田明子、三浦由紀子、吉田亜希子、吉川加奈子、泥谷朋子

国立病院機構災害医療センターと国立病院機構村山医療センターで実習を行う予定であったが、国立病院機構災害医療センターがコロナの影響で臨地実習を予定していた病棟数が減少したため、臨地実習と自宅学習のハイブリット学習で実施した。実際の臨地実習は短縮されたが、開始前から臨床側との連携を密にし、教育体制を整えたため、学生は学内の学びと臨地での実際を統合することの学びと今後の自己の課題を明確にすることができた。初めての看護過程の展開実習であり、学内で学んだ看護過程の知識と実際の患者のケアを結びつけて思考・記載することの大切さを学生は実感することができた。今後も臨床側との連携を密にして、感染拡大を想定した状況に対応できる実習体制を整えていく必要がある。

12) 看護理論（立川）：2 年次生後期

松谷弘子

看護理論とは何か、理論の概念枠組み、構造を理解するとともに、看護実践における理論の活用方法について具体的事例をあげ、看護の展開にどの様に理論的視点が盛り込まれているのかを教授した。災害看護の視点から、異文化理解の視点を持つレイニンガーを含め 12 名の理論家を中心に教授した。グループワークでは、1 名の理論家に対して 2 つのグループがプレゼンテーションを行い、理解が深まるよう全体討議した。最終レポートとして、学んだ 10 名の理論家について、理解したことをまとめる作業を行うことで様々な理論が理解できるよう組み立てた。次年度は、理論と実践をさらに結びつけられるような講義も取り入れ、理論に興味を持てるように構築していく予定である。

【成人・老年看護学領域】

教育方針

成人・老年看護学領域は、成人看護学と老年看護学の二つの領域を合わせてシームレスにとらえ「統合された存在である人間」を検討する看護学領域である。本領域では、AYA 世代から老年期まで、死を含めてこのライフステージにある人々の看護を教授する。方法として、概論、各論、演習を科学的な理論とデモンストレーション、グループディスカッションなどのアクティブラーニングの二つで展開する。このプロセスを経て、臨床実践の基礎となる臨地実習を結実させる。この中で特に全ての科目の知識・技術の根幹となる対象の理解については、教員の臨床経験、小説の名場面や名言、歴史的事実、社会現象、事件などを積極的に解説し、学生にとって未知である大人や老年者への想像力を高め、「人が生まれ、成長し、死ぬ」というプロセスへの洞察や共感を養う。これらをもって、人生の意義を思考して自身の看護観、死生観を形成し、人々への愛と社会への使命をもって実践する看護師となる学生を育成する。

1) 成人看護学概論（立川）：1 年次後期

青木和恵、藤村朗子、櫻井敬子

成人看護学概論は、大人（成人）の特徴、健康と疾病の状況を学び、大人とは何か、さらに個人の人生と社会において大人であることの意味を理解し、これらから成人看護の意義とその方法を学修する授業である。この授業を受ける学生は、多くは 20 歳前後で大人の入り口にいる AYA 世代であり、学生にとって大人は未知の存在である。そこで事例や例題の展開で、両親や祖父母など学生の身近な大人を想像できる内容とし、理論や概論を理解できるように進めていった。また歴史小説における名言、古今東西の格言などを多く取り入れ、学生の大人への関心と想像力を高め、自身の世代である AYA 世も含め、その健康問題や看護を理解し、医療問題や課題などを理解できるように教授した。授業を受ける学生は核家族、若者減少という世代背景の中で生活しており、加えて新型コロナウイルス対策によって対面授業をうける機会が少ないという条件も加わり、人との接触の少ない状況が

続いている。これらの学生が広く長い幅をもつ大人というライフステージを理解することは難しいことである。さらに学生の想像力、関心、感性を高める授業内を検討していきたい。

2) 老年看護学概論（立川）：1 年次後期

青木和恵、内藤亜由美、岩渕起江

老年看護学概論は、高齢者をライフサイクルと社会環境から全人的にとらえ、多様で幅広い老年観を学び、高齢者の健康を促進し、個々の人生において良い老年期生活、ひいては良い終末むかえることを支援するための看護実践について学ぶ授業である。成人看護学概論においても大人を理解することに関してその困難さを述べたが、これと同様に学生にとって高齢者はさらに未知の存在である。したがって、授業では身近な事例や社会的話題などを取り入れて想像力を高め、高齢者とその問題を身近に感じられるように授業展開を工夫した。特に成人看護学概論とはシームレスな関係の授業として位置づけ、成人期後半と並行しながら進行し老年に至る経過を解説し、その上で老年看護の内容、特に人権と安全などに関する倫理問題、意思決定とエンドオブライフケア、家族看護など、老年固有の課題を理解できるように、具体的事例と理論の解説に力を入れ展開した。

3) 慢性期看護論（立川）：2 年次前期

櫻井敬子、青木和恵

慢性期看護論では、対象を病とともに生きる生活者として捉え、疾患・治療に伴う、ライフスタイルの変更を余儀なくされる成人期の発達課題を踏まえ、社会生活での治療継続の困難さとそれを支える社会支援と連動させるように構成した。継続治療を妨げる原因の1つとなる災害時の備え、災害時に起こりやすい事象と対処について具体的な事例とあわせて教授している。緩和ケアにおいてはがん及び非がん疾患の対象の症状に対する看護や、AYA世代の苦悩、患者の意思決定における看護師の役割など臨床の取り組みを交え教授することができた。実際の病院風景も示すことで、療養イメージにつなぐことができた。講義全体では講義終了後の学生質問は、次の講義で回答し、すべての学生と共有を行った。患者・家族の生活の場を想起できる事例を提示することの効果が見られているため、今後も事例を取り入れた講義を構成していく。

4) 老年期看護論（立川）：2 年次前期

内藤亜由美、岩渕起江、折元美雪

老年期看護論は、老年期の健康障害の特徴と健康レベルに応じた看護実践を学ぶ科目である。そこで、今年度の授業は、入院治療を必要とする高齢者の看護について理解できること、高齢者に特徴的な健康障害に対する援助方法について理解できることを到達目標として展開した。授業は対面形式で行い、COVID-19 感染予防対策として2 教室に分かれて行われた。教室間はZoom を用いて接続した。授業で取り上げた高齢者に特徴的な健康障害は、骨折、肺炎、パーキンソン病・パーキンソン症候群、転倒、認知機能障害、廃用症候群であった。対象の学生はCOVID-19 感染拡大の影響で実際の患者と接した経験が少ないことに配

慮し、いずれの講義も学生の理解につながるよう図表を多く用いた資料を作成し、事例を取り入れる工夫を行った。評価は、Desk net' s の回覧課題提出を含めた受講態度、英語問題を含む対面の試験で行った。次年度は、新カリキュラムへの移行も念頭に置き、老年看護実践論、成人・老年看護実践論への発展性、他領域の授業科目対応内容の照会も行いながら、授業内容を構築できるよう検討が必要である。

5) 老年看護実践論（立川）：2 年次前期

岩渕起江、内藤亜由美、折元美雪

加齢による生活機能障害および老年期の特徴的な健康障害に対する高齢者への援助技術の習得および高齢者の健康を維持・増進するための援助方法について学ぶこと目的とし、対面またはリアルタイム型の遠隔による講義・演習を実施した。

加齢による高齢者の身体的変化が日常生活動作や精神面へ及ぼす影響を学習するため、ヘルスアセスメントや基本活動に関する講義を初期に実施した。その後の講義や演習においては高齢者に多くみられる症状から生活機能を整えるための具体的な看護について教授した。レクリエーションの演習では、遠隔下でもオンライン機能を有効に活用したグループワークによるディスカッションや学修内容の発表を実施できた。認知症の看護については老年期看護論で病態や看護に関して基本的内容を学修した後に、本年度も認定看護師を外部講師として招聘し認知症高齢者に対する具体的な看護について講義を実施できた。今後同時に講義を展開している老年期看護論との調整を図り、対面や遠隔による講義・演習に対応できるよう検討していく必要がある。

6) 老年看護学実習 I（立川）：2 年次後期

内藤亜由美、岩渕起江、折元美雪

本実習は、地域で暮らす健康な高齢者とそれを支えるヘルスケアシステム、高齢者施設における看護実践を学修する科目である。さらに学修を通して、個々の高齢者の人生に関心をもち、理解と尊敬の念を深めることを目標とした。実習期間は COVID-19 感染第 5 波が収束した時期であったが、高齢者施設における感染対策は厳格であり、昨年度よりも 1 施設減の 9 施設での実習となった。そのうちオンライン実習が受入条件の施設が 4 施設あった。通年実施しているレクリエーションもオンライン参加という制限が生じた。しかしながら、実習施設と創意工夫を行い、Zoom の画面越しに利用者と対話やバースデーソングのプレゼント、じゃんけんゲームなどの工夫を取り入れ、双方向性のコミュニケーションを体験し高齢者の笑顔と触れる貴重な経験ができた。また、学内実習日には、高齢者疑似体験、激動の昭和時代を映像化した DVD 視聴、視聴後のカンファレンスを通して、高齢者が辿った時代背景について関心を深めることができた。次年度は、臨地実習の時間増加が喫緊の課題であり、そのための努力を惜しまず早期から調整に取り組みたい。

7) 急性期看護論：3 年次前期

藤村朗子、荻田明子、三浦由紀子

急性期看護の基本概念、ストレス理論や危機理論など看護理論、疾病や侵襲的治療によって生命危機状態にある患者・家族の特徴について教授した。感染対策を徹底し、対面で授業を実施した。オンライン授業になることも踏まえ、事前に授業資料一式を学生に配布したことにより、事前学習や実習でも活用して学修を進められていた。副教材として視聴覚教材を活用し、周手術期看護の実際について具体的にイメージできるよう教授した。次年度は、実習で遭遇する機会のある疾患を加え、より臨床現場に則した授業を展開していく。今年度の授業形態のメリットを踏まえ、学生の学修意欲を引き出す工夫を検討していく。LMS を有効活用して能動的学修の促進と学生のニーズに対応できるよう努める。また、学生のレディネスを把握し、学生が体験（経験）に基づいた学修や既習した知識を活用し、学修の積み重ねが促されるよう教授していく。

8) 成人・老年看護実践論：3 年次前期

藤村朗子、岩渕起江、櫻井敬子、折元美雪、荻田明子、泥谷朋子、内藤亜由美、青木和恵

成人看護学・老年看護学、各 15 回（計 30 回）で授業を展開した。成人・老年看護学に必要な知識・技術を教授した。成人看護学では、成人期の各健康レベル（急性期・慢性期・終末期）の事例で 4 年次生を活用した模擬患者・模擬看護師演習を実施した。事例患者の DVD 視聴や教育用電子カルテを活用し、より臨床現場を再現できるよう工夫した。2 年次の実習を臨地で実施できなかった学生であったため、実習を経験している 4 年生からフィードバックや、実習の要素を取り入れた演習は有意義であった。

老年看護学では高齢者の特徴を踏まえたコミュニケーション技術や褥瘡ケアなどについて教授した。高齢者特有の看護の視点について実践的に教授したことにより、高齢者の理解に繋がった。次年度も同様に看護実践力が強化できるよう、リアリティのある教育を目指していく。

9) 医療安全学：3 年次前期

青木和恵、櫻井敬子、岩渕起江、荻田明子

医療安全の基本的な考え方を理解し、医療における安全性の確保に向けた看護師の役割と責任について学修する授業である。まず事故発生メカニズム、ヒューマンエラーなど基本となる考え方を解説し、次に今日の医療現場で起きているインシデントとアクシデント等について、多角的なリスクマネジメントの視点から安全を阻害する要因、その対処、予防法に関する解説を展開した。さらに医療従事者が遭遇する感染や薬剤曝露等の危険性と対応、医療安全対策およびそのシステムにおける看護師の役割と責任と法的責任、看護学生の実習における危険と対応などの発展的な課題について解説した。また、看護における医療安全の取り組みとして、事故発生時の考え方と対応、看護業務と医療事故予防-要因・種類・対策などについてグループディスカッションを行い、発表会を開催し、学生が思考や知識を共有できるように運営した。

10) 看護管理学：3年次前期

青木和恵、泥谷朋子

医療組織の中で看護組織と各種医療チームを運営し、多職種チーム医療のリーダーおよびメンバーとして、組織の目指す看護実践を展開できること、加えて修得した知識によって、学生自身が医療者としてのキャリア形成を検討できることを目指した。まず日本の医療の現状と経済の状況を教授し、つぎに組織論として、日本の組織の形態と特徴、医療組織の形態と多職種チーム医療の特徴について説明し、看護部門における人材育成、労務管理、患者管理、安全管理などの解説を通して、看護管理とは何かを考察できるように進めた。多職種チーム医療のあり方についてはグループディスカッションを行い、キャリア形成については教員が自身のキャリアアップのプロセスをプレゼンテーションした。学生にとって実感の薄い遠い存在である「管理」というものを身近に感じられるように、さらに教員自身の経験や事例を取り入れ、積極的なアクティブラーニングを推進していきたい。

11) 成人看護学実習Ⅰ（急性期）：3年次後期

藤村朗子、櫻井敬子、荏田明子、泥谷朋子

急性期にある患者およびその家族を多角的に理解し、心身の危機的状況下から生活機能の回復、社会復帰に至るまでの生活過程を整えるために必要な基礎的な看護実践能力を修得することを目的とし、国立病院機構災害医療センター、国家公務員共済組合連合会立川病院の2施設で実習を行った。2施設とも臨地での実習を実施することができたが、感染状況に応じて一部、学内実習となった。今年度より救命センターでの実習を導入した。救命センターでは特に急性期における倫理的課題について学修することができ、最終カンファレンスにおいても学びを深化することができた。学内実習では、実践的な経験ができるよう教育用電子カルテ、シミュレーターによる臨床現場を再現し、看護技術の実践とその後のデブリーフィングを行い、思考過程の育成に焦点を当てて教授した。次年度は、学生の知識定着や思考力と判断力、問題解決能力の育成を重視した実習形態を検討していく。また、実習施設とより密接な指導体制を確立し、高い教育効果を目指した一貫性のある実習指導を実践していく。

12) 成人看護学実習Ⅱ（慢性期）：3年次後期

櫻井敬子、藤村朗子、岩渕起江、折元美雪

慢性疾患を持つ対象の健康障害に適応する能力の維持・増進に向けた援助を促すための基礎的な看護実践を修得することを目的とし、一部、感染防止対策のため数日オンライン実習となったが国立病院機構災害医療センター、国立病院機構村山医療センターの2施設で、臨地実習による学修ができた。退院支援専従看護師やSMWを交えたディスカッションを行うことで患者・家族が生活者の視点でとらえることに繋がっている。実際、患者家族を交えた退院支援カンファレンスに参加する機会も得ることができた。病院機能の異なる急性期病院と回復期病院の実習のため、患者の健康の段階の違いや、治療目的、看護、退院支援の

実際にディスカッションすることで学修を共有している。次年度も多職種と連携した実習形態の充実を図るため、患者・家族の支援の場を実習内に取り込んでいく。

13) 成人看護学実習Ⅲ（終末期）：3年次後期

青木和恵、荻田明子、泥谷朋子

人生の終末を生きる対象患者を全人的に理解し、加齢や疾病から生じる苦痛を緩和し、患者が自身の終焉と向き合い、臨終までをより良く生きるための看護実践を学修することを目的とする臨地実習である。国立病院機構災害医療センター、国家公務員共済組合連合会立川病院の2施設で実習を行った。新型コロナウイルス感染症対策として、立川病院では、学生が担当患者に直接患者に接することなくカルテと臨床指導者など医療者から情報収集して看護計画を立て、臨床指導者が患者に実施し、その結果を学生に返すという変則臨地実習を行った。また災害医療センターの実習では、実習病棟の感染対策の必要に応じて、適宜内実習に変更して行った。学生の受持ち患者は主に加齢による疾患とがんの患者であった。学生はまだ死生観などが形成されない状態であったが、これに適する担当患者を受け持ち患者に選択した。変則実習および学内実習では、学生が時間をかけて深く丁寧に学修することとなり思考力の養われる実習となった。今後は通常の臨地実習にこのような方法に取り入れていきたい。

14) 老年看護学実習Ⅱ：3年次後期

岩渕起江、内藤亜由美、折元美雪

病とともに生きる高齢者を全人的に理解し、健康回復の促進に必要な基礎的な看護実践能力を身につけることを目的に国立病院機構災害医療センター、国立病院機構村山医療センターの2施設で実習を行った。新型コロナウイルス感染拡大の影響により施設における実習が困難となった学生に対しては、状況に応じて学内実習やオンライン実習で対応した。1クール全ての期間が学内実習となった学生に対しては、vSimの活用、事例による看護過程の展開、カンファレンス、講義および演習を実施した。実習途中よりオンライン実習に切り替わった学生は、受け持ち患者を想定した看護過程を展開し、援助の実施については図や動画を用いたプレゼンテーションやロールプレイを実施した。本年度は2週目の学内実習で、高齢者看護において重要な褥瘡についてリスクアセスメントと外力への対策の知識・技術を修得することを目的とし、全員が講義・演習に参加し学びを深めることができた。

次年度も感染対策を徹底し、実習形態に変更が生じた場合でも学生の学修内容が深められるよう検討していきたい。

【小児看護学領域】

教育方針

あらゆる発達段階および健康状態にある子どもと家族を理解し、小児看護が実践できる能力を養うことを目的としている。小児各期の子どもとその家族やそれらに影響を与える

社会的環境も含め、小児看護学として位置づけ、「小児看護学概論」、「小児看護実践論」および「小児看護学実習」の科目で構成している。

1) 小児看護学概論（立川）：2年次後期

久保恭子

小児各期の成長・発達理論とその評価方法を学び、小児医療の歴史的変遷、倫理および機能を学び、現代の小児看護の役割と課題を明確にすることを目的とした。

講義・演習内容は小児各期の成長・発達段階等について、小児看護に必要な理論、子どもの虐待・発達障害・食物アレルギー、子どもの移植医療や子どもと家族を支える法律、施策についてであり、学生各自が自分の成長・発達を振り返りながら、また経験したことを理論にあてはめながら学習を進めた。次年度から、講義方法を変更し、講義後半に学生と教員とのディスカッションの時間を設け、相方向授業を展開し、学生の学びをサポートする予定である。

2) 小児看護学実践論：3年次前期

久保恭子、宍戸路佳

健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響、健康障害のある子どもと家族がセルフケア能力を高め、彼らのウェルビーイングの向上に必要な看護が学べるように対面・遠隔による講義を実施した。本年の課題としていた演習の充実について、モデル人形を最新し、学生の技術経験の向上を目指した。また、実習で受け持つことの多い人工呼吸器装着時の子どもの看護は講義内に入れ込み、映像などを使い学習を強化した。次年度から、実習病院のスタッフの講義も入れ込み、より臨床に近い小児看護について学生に教授する予定である。

3) 小児看護学実習：3年次後期

宍戸路佳、久保恭子、非常勤助手

小児看護学概論及び小児看護学実践論で学んだことをもとに病院あるいは家庭で療養・生活している子どもと家族の健康上の問題を解決するための援助を考えられるように小児看護過程の用紙を新しくし実施した。新しくしたことで子どもがもっている疾患、状態について考え、子どものもつ力や成長発達を考えて援助を行う大切さや、症状がおちついていても命に関わる症状が再燃していないかなどを意識して子どもとかわかっていた。一部、病院実習や保育園実習が今年度も行えず、学内実習となったクールもあったが、映像や子どもの状態を想起できるように演じた結果、個別性の重要性や観察することの大切さを学んでいた。何となくわかっている、記録に起こせない、アセスメントが苦手という学生もいるため、学生の学習進度にあわせて学生の学びをサポートし深めていく必要がある。

4) 看護教育：4年次後期

久保恭子

日本の看護教育の変遷、諸外国と日本との看護教育の相違について、看護師としての生

涯学習の必要性について教授した。教育方法の変遷を実際に学生達に体験してもらいながら、効果的な看護教育について考える体験型の講義とした。昨年度の課題であった開講の時期は1か月程度早め、学生達も余裕をもって本科目に向き合えた。

5) 災害看護Ⅰ：1年生前期

久保恭子

災害看護学の導入と救急法・包帯法の講義・演習を行った。今年は遠隔講義が中心であったが災害時の映像等を活用しながら学問への興味関心を高めるように仕向けた。包帯法、救急法においてはZOOM上にて学生の手技の確認、ユーチューブ等で模範演習をアップし、繰り返し学習ができるようにした。

【母性看護学領域】

教育方針

母性看護学では、女性のライフステージ全般にわたる健康の諸課題をリプロダクティブヘルス・ライツの視点から幅広く理解し、看護を実践する上で基盤となる知識を修得する。看護実践力の育成をめざして、科目は母性看護学概論、母性看護学実践論、母性看護学実習から構成している。

妊娠・分娩・産褥・新生児期の母児とその家族を対象に、健康を維持・増進するために必要な支援方法を修得することを目的としている。

授業は教育内容に応じて、リアルタイム型オンライン講義と対面授業を組み合わせで実施した。母性看護に関心を持ちアクティブに学習に取り組めるように、個別学習としてのフィールドワークや妊婦体験学習、対面での看護技術演習、シミュレーションの実施などの工夫を行い、目標達成ができるように授業を展開した。

1) 母性看護学概論（立川）：2年次後期

衣川さえ子、黒澤範子、吉田亜希子

目的は女性の性と生殖に関わる健康をリプロダクティブヘルス・ライツの視点から捉え、母性各期における援助法および母性看護の役割について理解を深めることである。内容はリプロダクティブヘルス・ライツ、セクシュアリティ、看護の対象、ライフサイクル各期の看護、保健統計の動向、法整備等である。授業は対面とリアルタイム型オンライン講義で実施した。アクティブラーニングとしての個別学習では、立川市子育てひろばでのフィールドワーク・妊婦体験・基礎体温の分析に関する課題レポートを課した。

工夫点は自作のガイダンス動画「子育て広場でのフィールドワーク学習方法」を視聴してもらった後に、2回のフィールドワークを実施したことである。教員1名が広場に出向き、テレビ会議システムで母親と父親に、出産や子育ての状況をインタビューした。参加学生は子育ての悩みややり甲斐、母性看護への期待について把握し、理解が深められた。また、女性のライフサイクル各期の健康課題に関するグループワークでは、全体発表で学

びを共有し、討議した結果、講義内容の理解がより深められた。

2) 母性看護学実践論：3年次前期

衣川さえ子、黒澤範子、吉田亜希子

目的は妊産褥婦および新生児と家族へ支援内容を理解し、援助の方法を学ぶことである。授業は、リアルタイム型オンライン講義と対面による演習で展開した。看護技術の教授では自作の「基本的技術の自己練習のための動画」を講義で活用し、「新生児の健康診査」「新生児の沐浴」「褥婦の健康診査」の演習に繋げた。在宅での自己学習のため、新生児モデルを学生に貸出した。

技術の到達度は、在宅で練習後に撮影した「沐浴」動画を WebClass にアップロードしてもらい、教員が視聴しチェックリストに沿って評価した。80 点に達しない学生には、不十分な手技を対面で指導し、再度新生児モデルを貸出した。再度の練習を促すことで、全員が合格に至った。

工夫点は、スキルと看護過程展開を関連づける演習を取り入れたことである。ベツトサイドで褥婦と新生児の健康診査を行い、自らの看護計画による助言指導することを課したシミュレーションを全員が個別に実施した。結果、具体的な看護計画と褥婦の理解度を確認しながら助言する必要性に気づくことができ、実習への準備性の高まりを確認できた。

3) 母性看護学実習：3年次後期

衣川さえ子、黒澤範子、吉田亜希子

実習の目的は、妊産褥婦および新生児とその家族の健康課題を査定し、健康を維持・促進できる看護実践能力や保健医療チームの一員として行動する能力を養うことである。臨地実習は、4 施設 5 病棟で展開した。コロナ感染対策下での実習であったが、褥婦と新生児を受け持ち、看護過程の展開を学生 1 人当たりほぼ 2 組の母児に実施できた。学生は、母児の健康診査、授乳の介助、新生児の沐浴等の実施、保健指導の見学等が経験できた。教員は、受け持ち事例に必要なケアが実施できるように、臨床指導者と連携しながら個別に指導した。

直接、受け持ち事例にケアができない 1 施設では見学が主体となったが、計画した助言内容を褥婦に説明する機会は確保できた。実習指導において、個々の学生の理解度と解釈の程度を確認し、タイムリーにフィードバックした。やりとりを重ねる中で、看護過程の理解ができるようになり、翌日の看護の視点が見出せるようになったという、学生の反応が得られた。

全体評価としては中核的な内容において、学生全員が目標の達成に至ったといえる。

4) 疾病と治療Ⅳ：2年次前期

衣川さえ子、小田金哲広、榛澤望

目的は泌尿器系、生殖器系、内分泌系の器官における主要な疾患について、病気のプロセスと病態生理、症状、診断の基準、検査データ、治療方法、予後等を理解することである。

講義は、リアル型オンライン、および録画動画の配信により実施した。講義内容が具体的にイメージできるように、DVD等の視聴覚教材を活用した。既習の解剖生理学を想起させながら、疾病による形態・機能の変化や病態を理解できるように資料を作成した。その疾患と関連する健康問題を提示するなどして学生の関心が高まるように工夫した。女性生殖器疾患の講義では、婦人科診察で用いる膣鏡の提示を行うなど、リアリティをもたせて講義を展開した。講義後の復習を促すために小テストを実施し、知識理解の定着を図った結果、一定の成果が確認できた。

【精神看護学領域】

教育方針

災害時も含めた様々な日常生活場面における精神保健、及び身体・知的・精神障害を持つ人々のセルフケアの回復・維持・増進にむけた看護展開に必要な知識・技術・態度を、講義と演習を組み合わせることにより総合的に学修できるカリキュラム展開を行っている。

また、学生自身の障害者観を社会情勢も含めた様々な方面から深く検討し、看護職として障害を持つ人々への効果的な支援のあり方について探求し続ける態度を身に着けることを目指している。

1) 臨床コミュニケーション論（立川）： 2年次前期

村松仁、田野将尊、小川賀恵

治療的コミュニケーションの必要性和効果を理解し、治療的コミュニケーションを活用するために必要な知識と技術、態度を総合的に学修することを目的とした。

昨年度に引き続きCOVID-19対応のため、対面講義とwebによる遠隔講義を組み合わせで行った。コミュニケーションに関する基本的な知識に関する講義にあわせ、コミュニケーション技術に関する資料映像の視聴を行い、治療的コミュニケーション技法の理解を促した。

また、プロセスレコードについては、これまでの実習体験から自己のコミュニケーションの振り返りを行うことで、自己のコミュニケーションの課題を検討することができた。合わせて、講義内容に関する感想や疑問をミニツレポートとして提出することで、理解の状況把握と疑問に対する回答を行い、講義内容の補完ができた。

次年度は、COVID-19対応に則しながら、コミュニケーションの技術については対面での講義を行い、治療的コミュニケーションの学修が充実するよう、講義を行いたい。

2) 精神看護学概論（立川）： 2年次後期

村松仁、田野将尊、小川賀恵

精神健康の定義や精神機能、精神発達、精神の危機とその反応、精神医療と精神看護の歴史的背景と今日における精神看護の課題の理解等を学ぶことを目的とした。

昨年度に引き続き COVID-19 対応として web による遠隔講義を行った。講義内容は精神健康（こころの健康）の定義、ライフイベントにおける精神保健、精神構造と機能、ストレ

スとその対応、精神医療と看護の歴史的背景、医療における精神障害者の人権擁護、精神保健福祉法などについて、資料映像の視聴も交え講義を行った。合わせて、講義内容に関する感想や疑問をミニツツレポートとして提出することで、理解の状況把握と疑問に対する回答を行い、講義内容の補完ができた。

次年度はCOVID-19 対応に則しながら、可能な限り対面での講義を行い、精神看護学の基礎的な知識の理解が促進されるよう、講義を展開したい。

3) 精神看護実践論（立川）：3 年次前期

田野将尊、村松仁、小川賀恵

精神障害及び精神的健康に障害を持つ対象を理解できるように、主な精神疾患の特徴と治療やリハビリテーション、利用できる社会資源、精神症状の観察ポイントとアセスメント、援助方法などについて、パワーポイントや教科書、視聴覚教材を用いて授業を展開した。精神障害のある対象の支援に必要な基本的な看護展開が学べるように看護過程を展開させ、実際のアセスメント力と看護計画立案に係る思考力の向上に努めた。また、災害時のケアの実際、心的外傷後ストレス障害やレジリエンスなど、災害時と関連する内容についても理解を深められるようにした。

本年度はCOVID-19 対応に則しながら、web による遠隔講義と対面講義を併用し、看護過程の展開にグループディスカッションや発表会を設け、アクティブラーニングの充実を図った。また、各講義でミニツツレポートに講義内容の学びと疑問点を記載してもらい、次回講義で理解しにくい点を補足、フィードバックできるよう工夫を行った。

次年度はアクティブラーニングにより実践的な内容を組み込み、看護実践力の向上につながるような講義を行いたいと考えている。

4) 障害者看護論：3 年次後期

田野将尊、村松仁、小川賀恵、外部講師

身体・知的・精神の三障害の概念や特性、障害を持つ対象と支援方法について理解できるように、パワーポイントや教科書、視聴覚教材を用いて授業を展開した。また、障害者を取り巻く環境や政策、制度についても理解を深められるように努め、障害者の権利擁護や社会の在り方についても看護の立場から考えられるように授業を行った。神経難病や進行性筋ジストロフィー、重症心身障害、精神障害・知的障害を抱える対象に対する具体的な看護実践や支援方法については、臨床で看護を実践している専門家を講師として招き、実際の看護体験に加えて医療の現状や課題についても考えられるよう工夫を行った。

本年度も COVID-19 対応のため web による遠隔講義が中心となったが、講義中にテーマを設けて学生自身の考えを記載してもらい、共有を行うなどアクティブラーニングの充実を図った。また、各講義でミニツツレポートに講義内容の学びと疑問点を記載してもらい、次回講義で理解しにくい点を補足、フィードバックできるよう工夫を行った。

次年度は今年度の内容をさらに発展させ、障害者を持つ人々への看護について学修を展開したいと考えている。

5) 精神看護学実習： 3 年次後期

田野将尊、村松仁、小川賀恵

精神に障害をもつ人を心理社会的・精神的・身体的側面から全人的に理解し、セルフケアの回復に向けた基本的な看護の検討および技術を身に着けることを目的として、国家公務員共済組合連合会立川病院、国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター病院（病棟・デイケア）、公益財団法人井之頭病院（病棟・デイケア）を実習施設として実習を行った。

本年度は病棟とデイケアの実習を組み合わせ、急性期の入院治療から社会復帰・社会参加期の地域精神保健まで、時間軸意識して継続医療について理解できるよう工夫を行った。病棟で1名の患者を受け持ち、患者-看護師関係に留意しながら治療的コミュニケーションを実践すると共に、デイケア実習を通して、精神科治療場面の見学、各種治療プログラムや作業療法への参加を通して精神医療の実際を体験することが出来た。また、全ての学生がプロセスレコードを用いて患者との関わりを通じた自己洞察を行い、自己の看護の傾向について気付きを得る機会を設けた。実習中は毎日カンファレンスを実施し、学生の疑問をその日に取り上げ、翌日の看護に結び付けられるように指導した。

なお、令和2年度授業アンケートの実習・実験科目において、精神看護学実習（3年次・必修）が学生から高く評価され、顕彰を受けた。

次年度は今年度効果的であった方法を加味し、学生が知識と体験を結び付けられ、思考力や実践力の向上につながる効果的な実習方法を検討していきたい。

6) チーム医療論： 4 年次前期

村松仁、田野将尊、小川賀恵、外部講師

チーム医療の意義、目的、運用等の基本的知識を理解し、実際のチーム医療を展開している各医療職種（災害医療センター、診療部長、看護部長）を外部講師として招き、医師および看護部長の立場から実際のチーム医療の展開について講義を頂き、実際のチーム医療の展開について理解を深めることができた。

昨年度に引き続き、COVID-19 対応のため web による遠隔講義とチーム医療の展開に関する事例の検討を対面で行った。チーム医療の実際を病院の様々な立場にある外部講師の講義を通し、実際のチーム医療のあり方と課題について検討することができていた。また、チーム医療に関する事例の検討と討議を行うことで、チーム医療の展開についてより深く学習することができた。

次年度も今年度の内容継続し、チーム医療に関する学修が深まるように講義を展開したい。

7) 卒業研究（精神看護学領域）

村松仁、田野将尊、小川賀恵

今年度は学生 11 名を担当し、研究テーマを「サージカルマスク着用による表情認知への

影響」とし、研究論文のクリティーク、研究計画の作成、データ収集と分析方法、結果のまとめ方、論文執筆について指導を行い、卒業研究論文を完成することができた。

今回は、研究方法として実験研究を行ったが、初めて研究を行う学部学生にとって、研究計画立案や実験におけるデータ収集について最初は不安が見られたが、シンプルな実験計画の立案方法や実際のデータ収集について不明な所などを丁寧に教授することで、学生が主体的に卒業研究をすすめることができた。

研究成果の発表として、看護系学会学術集会への一般演題投稿を行う予定である。

【在宅看護学領域】

教育方針

在宅看護学領域は、地域看護学、在宅看護学、および災害看護学に関する科目を担当している。これらの科目を通し、保健・医療・福祉を総合的に学び、様々な健康レベルの対象者に対して、継続看護の重要性を学ぶことを目的とした。さらに、地域包括ケアが進展していく中で、住み慣れた場でその人らしい生活が継続できるよう在宅看護の役割や支援方法を理解し、多職種と協働し、対象のセルフケア能力を高めるための知識、技術および態度を身につけることを目指した。今年度も対面授業が制限される時期もあったが、昨年度の経験を活かし、科目の学修目標を達成するために授業形態を選択し、例えばグループワークでも遠隔か対面それぞれの良さを考えて工夫し、講義・演習を実施できたと評価する。

次年度から新カリキュラムが開始となり、1年次後期から地域・在宅看護論が始まるため、4年間を見通したカリキュラムの再構築と、科目別に授業内容を見直すことが課題である。

1) 地域看護学概論（立川）： 2年次後期

桜井礼子、テイラー栄子、吉川加奈子

地域看護学概論は、継続看護の必要性和地域で活動する看護職に求められる役割と、多職種多機関との連携・協働とネットワークづくり、ケアマネジメントの基礎を学ぶことをねらいとしている。また、疾病予防看護学の授業との連動を考慮して、週2コマのペースで授業を実施した。地域で生活する人々の健康とQOLを高めることを主眼とする地域看護活動について、地域において展開されている看護活動の全体像と基本的な考え方について学習した。さらに、各ライフステージにおける健康指標と健康課題、および看護職の役割と具体的な活動について学修することを目指した。地域で生活する人々の健康を支える保健師の役割についても、連携する看護職として関心をもってもらうようにした。また、事前・事後課題で自分が住む地域の社会資源等を調べて自分が住む地域の制度への関心を持ってもらうことで、制度の理解につなげる工夫を行った。

次年度は、地域で展開されている保健活動や疾患や障がいをもった方々の生活支援に関する制度（仕組み）についても理解を深め、看護活動の実際を学ぶことができるように講義内容を検討していきたい。

2) 家族看護学（立川）： 2年次後期

桜井礼子、テイラー栄子、吉川加奈子

家族看護学は、家族の役割機能、現代の家族の諸問題に着眼しながら、自らの家族観を見つめ直すこと、また、家族を単位とし様々な視点で家族をとらえる見方を養い、疾病や障害が家族に与える影響と家族が障害や患者に与える影響について理解し、家族看護の意義と役割を学ぶことをねらいとした。時代とともに多様化する家族形態、家族のあり方や家族の特性、家族をアセスメントする視点と情報収集の項目を提示し、学生が実習で家族と接する機会が少ないことも考慮し、家族のライフステージと発達課題、および健康危機などの事例を提示しながら、事前・事後課題を活用して、家族の多様性と家族看護について学生が考えることができるよう講義をすすめた。また、自らテーマを決めて文献検討を行う最終レポート課題は、学生が関心をもったテーマをまとめることで、家族看護の重要性について学びが深まったと評価している。

次年度も、学生がイメージしやすいよう事例を提示しながら、看護職としての家族観、家族のセルフケア機能を高めるための家族看護の基本的な考え方や役割について、学生が主体的に思考し学ぶ工夫をしていきたい。

3) 疾病予防看護学（立川）： 2年次後期

テイラー栄子、桜井礼子、吉川加奈子

ヘルスプロモーションの概念、健康増進方策、行動変容を促す基本理論と方法を理解し、ライフサイクルに沿った健康課題に対して健康教育の企画、プレゼンテーションをすることを目的とした。Covid-19 の拡大を受け授業形態は、リアルタイム遠隔講義と対面講義・演習を行った。反転学習でライフサイクルにそった健康課題の理解を促した。講義ではヘルスコミュニケーションを活かし対象者のヘルスリテラシー、エンパワメントを高める手法について、具体的な事例を用いて教授した。講義後にミニレポートを課し学生の講義内容の理解状況を把握し講義内容の改善に努めた。また、学生からの質問は個別対応や、必要に応じ次の講義で全体に回答した。今年度は学生が主体的にグループワークに取り組むことができるために、講義で教授したエンパワメントの一手法であるアイスブレイクをグループワークに取り入れた。グループダイナミクスを発揮できるような仕組みを作った結果、積極的に取り組む学生が多くみられた。次年度も今年度に引き続き、健康教育の企画にヘルスプロモーションの理論や手法を活かし、アクティブラーニングの場として充実させていきたい。

4) 自立支援教育論（立川）： 2年次後期

桜井礼子、テイラー栄子、吉川加奈子

自立支援教育論では、慢性疾患や障害などのさまざまな健康課題を抱えた対象者に対して、課題解決に向けたセルフケア能力や自己効力感を高めるための理論を活用し、意思決定支援、自立支援へとつなげる手法を学ぶことを学修目標とした。また、自立支援のための情

報提供や行動変容のプロセスを理解し、効果的な個別健康教育・保健指導の方法について理解することを目指した。講義は、全て遠隔授業とし、保健指導のグループワークは、保健指導の場面を設定し、教員が対象者役となりロールプレイを組み込んだ演習とした。ロールプレイで情報収集を行うことで、積極的に関心をもってグループワークに取り組み、個別性・実行性のある保健指導の目標設定、計画立案の重要性に気付くことができていた。しかし、演習時間が少なかったとの感想が多く、次年度の課題とする。また、最終レポートから、対象の行動変容を促すための知識・技術として、生活と健康課題を結び付けるための病態を含めた知識の不足とコミュニケーションを課題とした学生が多かった。この点も学生がこれまでに学習してきた知識や生活体験を踏まえて、次年度の検討課題としたい。

5) 災害看護学Ⅱ（立川）： 2年次後期

桜井礼子、テイラー栄子、吉川加奈子、外部非常勤講師

災害看護学Ⅱでは、災害看護Ⅰで学修してきた内容を踏まえて、災害時の医療・看護活動の基盤となる災害対策の法的根拠や、発災時から変化する状況下で、多職種と連携・協働しながら、災害サイクルにそって医療および看護活動を展開するための知識・技術・態度について学修することを目指した。災害による地域で生活する人々への影響を考慮し、災害時に自らが状況を把握し判断して支援を考えるために、災害に関する映像を用いて支援内容を考える課題とするなどの工夫を行った。特に災害拠点病院の役割や発災時の医療施設の対応や被災者への支援について体験を通して理解するために、災害医療センターの防災訓練に参加を予定していたが、今年度も COVID-19 の影響で訓練は中止となった。このため、災害医療センターの看護師で、DMAT インストラクター2名の方々による、災害拠点病院における災害訓練の実際の講義、一次トリアージ演習、および国内・国外での災害活動の講話を行っていただくことで、今後の学習の動機付けにつながる学びとなっていた。次年度も、災害訓練の参加など体験を通じた学びとなるような授業を工夫していきたい。

6) 在宅看護学概論： 3年次前期

桜井礼子、テイラー栄子、吉川加奈子、外部非常勤講師

在宅看護学概論では、地域で生活する療養者とその家族の療養生活をイメージし、そのケアニーズを理解すること、また、それらを支える制度や社会資源と、在宅ケアマネジメントにおける看護師の役割、および多職種との連携・協働について理解することを目指した。遠隔授業が主となったが、訪問看護のイメージや在宅で療養する人々とその家族のニーズが理解できるよう DVD などの視聴覚教材を活用し在宅看護のイメージ化を図った。また、地域包括ケアシステムのもと、対象者個々が抱える健康問題にそった支援方法や在宅ケアを取り巻く現状と課題に対して、介護保険、医療保険の仕組みと医療・介護の連携、地域包括支援センターや地域ケア会議の役割と機能などを理解することで、学生が対象者の問題解決の方法を考えることができることを目指した。

次年度に向けては、継続看護を視点とした、地域で生活する療養者とその家族に対する訪問看護の必要性および社会資源の活用方法について理解を深め、退院支援などの継続看護

の重要性を理解してもらい、各論実習の実践的な学びにつなげたいと考えている。

7) 在宅看護実践論Ⅰ：3年次後期

テイラー栄子、桜井礼子、吉川加奈子、青木和恵、外部非常勤講師

安心安全な在宅ケアの提供と療養者・家族のニーズに応じた在宅ケアの看護実践を考えることができることを目的とした。介護保険制度を踏まえ、多職種と連携し多角的な視点で療養生活・医療的管理支援技術が考えられるように授業を展開した。在宅療養生活を具体的にイメージできるように、DVD等の視聴覚教材や事例を多く用いるとともに、講義に関連したカテゴリーを提示するなど実践的に講義をした。演習は多職種連携・協働と看護過程の展開である。多職種連携・協働では、反転講義、視聴覚教材の活用、そしてシミュレーションを通じた体験学習とした。学生からは今までの知識が統合されたと好評であった。看護過程の展開演習では、ターミナル期の紙上事例を個人ワークとグループワークで学修し全体において共有した。次年度は情報収集のアセスメントを全体像につなげられるように強化していく必要がある。

8) 在宅看護実践論Ⅱ：4年次前期

桜井礼子、テイラー栄子、吉川加奈子

療養者・家族が安心・安全な療養生活を継続するための、在宅療養環境や在宅ケアシステムの理解、および地域における多機関・多職種と連携した継続看護と支援方法の展開を学習目標とし、「地域診断」および「在宅看護過程の展開」の演習を行った。「地域診断」では、市および地域包括支援センターが管轄する地域を対象として、既存の統計データや社会資源などの情報収集を行い、地域特性および健康課題について分析を行った。「在宅看護過程の展開」では、在宅看護学実習で使用する記録用紙を用いて、提示した訪問事例のアセスメントから全体像と看護課題の抽出、看護計画の立案を実施した。さらに、1回の訪問看護の訪問計画を立案することで、限られた時間内での訪問看護の実践を考えることの難しさが実感できたと考える。

次年度は、「地域診断」は、地域包括支援センター実習の事前学習となるため、地域の実情を反映した情報収集ができるよう地区踏査等の方法を検討したい。また、「在宅看護過程の展開」では、訪問計画の実践内容のロールプレイを演習に加えて看護技術の見直しを行い、在宅看護学実習につなげたいと考えている。

9) 在宅看護学実習：4年次前期

桜井礼子、テイラー栄子、吉川加奈子

在宅看護学実習は、地域で生活する療養者とその家族および療養環境に関する理解を深め、健康・生活上の課題とその支援方法について学ぶことを目標とした。今年度も COVID-19の影響が続いている時期の実習だったが、訪問看護ステーションでは10日間のうち4日間を施設実習として受け入れていただいた。学生は訪問看護師との同行訪問で、受け持ちの療養者と家族の在宅療養の様子を通して看護実践の必要性を考えることができていた。また、地域包括支援センター実習は、約10名を1グループとし、実習指導者と学生を遠隔で

つなぎ、指導者から管轄する地域の特性にそったセンターの活動と看護職の役割などの説明を受けた。さらに学生が事前学習で作成した地域診断をもとに、学生と指導者間でディスカッションや質疑を行うことで、地域の特性にあった介護予防の事業等の実際を学ぶことができたと評価している。

次年度は、感染状況にもよるが、訪問を看護ステーションでの施設実習日を増やし、療養者と家族への直接的なケアの体験ができればと考えている。また、地域包括支援センターは、遠隔を用いた方法で実習を実施していきたいと考えている。

7. 業績

【看護基盤学領域】

1. 著書（翻訳書を含む）

特になし

2. 論文等（原著，総説，短報，研究報告，実践報告，資料）

後藤宇慧，井上祐華，入澤法子，大熊彩香，川南美春，栗山瞳，桑澤里彩，斉藤瑞稀，白井麻央，杉村江莉佳，見山莉奈，今井淳子，三浦由紀子，堀田昇吾，高木晴良（2022）. COVID-19 パンデミック下における感染拡大予防行動に関連する要因. 東京医療保健大学紀要，16(1), (in press).

堀田昇吾，太田勝正（2021）. 「看護職のための眼の水晶体の放射線防護ガイドライン」作成の背景. 日本放射線看護学会誌，9(1), 24-28.

Miura Y, Nakagomi S (2021). Management of Cutaneous Manifestations of Genetic Epidermolysis Bullosa: A Multiple Case Series. Journal of Wound, Ostomy and Continence Nursing, 48(5):453-459.

3. 学会における発表

堀田昇吾，加藤知子，佐藤潤，吉田浩二，野戸結花，小嶋光明，赤羽恵一，太田勝正，明石眞言，草間朋子. 原子力災害支援保健チーム（NuHAT）の構築に向けて-看護職を活用した住民に対する放射線リスクマネジメントの推進-. 日本放射線看護学会第10回学術集会，2021年9月18日，弘前（Web）.

松原孝介，草間朋子，座長（堀田昇吾，新井龍）. 日本放射線技術学会との共催企画シンポジウム. 日本放射線看護学会第10回学術集会，2021年9月18日，弘前（Web）.

松成裕子，堀口逸子，松尾帆浪，村上優人，岡村美帆，新川哲子，野戸結花，西沢義子，太田勝正，小山内暢，堀田昇吾. 放射線看護高度看護実践者による放射線リスクコミュニケーションとは. 日本放射線看護学会第10回学術集会，2021年9月18日，弘前（Web）.

西沢義子，佐藤裕美子，野戸結花，太田勝正，小山内暢，堀田昇吾. 「放射線看護モデルシラバスの活用に向けてーモデル授業 その2 放射線看護ー」. 日本放射線看護学会第10回学術集会，2021年9月18日，弘前（Web）.

堀田昇吾，田野将尊，藤村朗子，松山妙子，三浦由紀子，久保恭子，桜井礼子，岩渕起江，宍戸路佳，吉田亜希子，森由美子，福田尾敦子，大賀一郎，橋本佳美，長田美咲. 大学教育と実習指導者の連携による臨地実習教育の取り組みー指導者・教員・学生3者の立場からー（交流集会）. 第41回日本看護科学学会学術集会，2021年12月4日，愛知（Web）.

松山妙子，三浦由紀子，藤村朗子，田野将尊，堀田昇吾. 看護基礎教育の臨地実習における看護技術到達度の理想と現実の差異ー臨床指導者と看護大学教員との比較ー. 第41回日本看護科学学会学術集会，2021年12月4日，愛知（Web）.

三浦由紀子，松山妙子，藤村朗子，田野将尊，堀田昇吾. 看護基礎教育の演習及び臨地実習における看護技術到達度の現実ー看護大学教員と学生の比較からー. 第41回日本看護科学学会学術集会，2021年12月4日，愛知（Web）.

森由美子，福田敦子，大賀一郎，橋本佳美，長田美咲，田野将尊，松山妙子，三浦由紀子，藤村朗子，堀田昇吾. 看護技術到達度の理想と現実に対する臨床指導者の認識の差異ー看護基礎教育における臨地実習場面からー. 第41回日本看護科学学会学術集会，2021年12月4日，愛知（Web）.

岡本美代子， 甲斐聡一朗， 豊國義樹， 三浦由紀子， 横堀將司， 久保達彦， 大場次郎.
Japan Disaster Relief Medical Teamの活動の質向上のための体制構築. 第27回 日本災害医学会総会・学術集会， 2022年3月5日， 広島 (Web).
川鍋奈月， 居上愛， 小林優思， 土井一真， 山敷翔， 今井淳子， 三浦由紀子， 堀田昇吾，
高木晴良. 日本学校に在籍する外国人の防災意識に関連する要因. 第27回日本災害医学会総会・学術集会， 2022年3月5日， 広島 (Web).

4. 研究助成および研究成果報告書

堀田昇吾. アクティブ・ラーニング手法を用いた放射線看護教育プログラムの開発. 日本学術振興会科学研究費補助金， 若手研究. 2019年度- 2021年度.
高木晴良， 堀田昇吾， 今井淳子. 特別治療食を必要とする人への災害時非常食支援のガイドラインの開発. 日本学術振興会科学研究費補助金， 基盤研究(C). 2019年度- 2021年度.
高野貴子， 高木晴良. 妊娠を希望する人々への基礎データの提供 ―流産胎児の染色体異常の解析―. 日本学術振興会科学研究費補助金， 基盤研究(C). 2021年度- 2024年度.

5. 社会貢献（学会以外の講演等， 学会や行政関連の役員， 地域貢献， 非常勤講師等）

高木晴良

- 1) 生物統計学. 早稲田大学教育学部. 2021年4月- 7月
- 2) 統合実習 (医療情報). 帝京大学医学部. 2021年6月- 7月
- 3) 健康管理論. 岐阜県立看護大学. 2021年10月- 2022年1月
- 4) 情報科学. 帝京高等看護学院. 2021年4月- 6月
- 5) 専任教員研究研修研究技法 (量的研究). 東京都立板橋看護専門学校. 2021年12月
- 6) 特別セミナー SPSSを使った統計処理 基礎編 I & II. 杏林大学. 2021年9月 (動画配信)
- 7) 特別セミナー SPSSを使った統計処理 応用編 I & II. 杏林大学. 2022年3月 (動画配信)

堀田昇吾

- 1) 日本放射線看護学会. 広報・渉外委員会 委員
- 2) 日本放射線看護学会. 学術推進委員会 委員
- 3) 「医学部における放射線健康リスク科学教育の必修化を支える教育システムの構築」 講義内容検討委員 (看護)
- 4) 「看護と放射線」テキスト編集委員会. 委員
- 5) 日本看護系大学協議会 (JANPU). 災害連携教員
- 6) 日本放射線看護学会. 第11回学術会議 事務局及び企画委員

三浦由紀子

- 1) 日本集団災害医学会 評議員
- 2) 第17回日本クリティカルケア看護学会学術集会. プログラム委員. 2021年7月開催
- 3) 第17回日本クリティカルケア看護学会学術集会. 抄録査読委員. 2021年7月開催
- 4) 27回日本集団災害医学会総会・学術集会. 抄録査読委員. 2022年3月開催

- 5) 27 回日本集団災害医学会総会・学術集会. 座長. 2022 年 3 月開催
- 6) 独立行政法人国際協力機構 (JICA) 国際緊急援助隊医療チーム 常設班 Emergency Medical Team Initiative 班員
- 7) 慈生会 野村病院 WOC 看護 コンサルテーション

今井淳子

- 1) 拓殖大学第一高等学校 出張講座. 2021 年 6 月
- 2) 東京都立小平南高等学校 進路ガイダンス. 2022 年 3 月

6. 上記以外その他 (原著, 総説, 短報, 研究報告, 実践報告, 資料以外の紙上発表等)

- 高木晴良 (2021). 亀山学長の特別講演 (立川キャンパス第 2 回 FD 企画) を開催. THCU Topics, 55, 20
- 堀田昇吾, 太田勝正 (2021). 看護職のための眼の水晶体の放射線防護ガイドラインの紹介. FBNews, 534, 11-12.
- 堀田昇吾 (2021). 乳幼児健康診査の活用 ―成長・発達をチェックを一. 保健の科学, 63 (11), 729-733.

【基礎看護学領域】

1. 著書 (翻訳書を含む)

特になし

2. 論文等 (原著, 総説, 短報, 研究報告, 実践報告, 資料)

- 松谷弘子, 鈴木英子, 塩見直子 (2021). 小児専門病院における看護師尾離職意向の関連要因. 日本健康医学会雑誌, 30 (4), 407-418.
- 塩見直子, 鈴木英子, 松谷弘子 (2021). 大学病院の看護師の職業的アイデンティティとバーンアウト. 日本健康医学会雑誌, 30 (2), 205-217.
- Matsuyama (Yamagami) T, Saito M (2021). Relationship between student of higher education institutions in Japan sexual values and sexual intercourse experience. Journal of reproductive psychology. 7 (1), 23-33.
- 松山(山上)妙子, 齋藤益子 (2021). わが国における青年期の性に関する体験と自尊感情との関連. 日本生殖心理学会誌, 7 (2), 6-11.

3. 学会における発表

- 松谷弘子, 鈴木英子, 塩見直子. 看護師長面談と看護師のバーンアウトの関連. 第 25 回日本看護管理学会学術集会, 2021 年 8 月 28 日-29 日, 横浜 (Web).
- 塩見直子, 鈴木英子, 松谷弘子. 大学病院に勤務する看護師の職業的アイデンティティの関連要因. 第 25 回日本看護管理学会学術集会, 2021 年 8 月 28 日-29 日, 横浜 (Web).
- 松山妙子, 齋藤益子. 青年期の性に影響する体験と自尊感情との関連. 第 20 回日本母子看護学会学術集会, 2021 年 7 月 4 日-13 日, (Web).
- 松山妙子, 三浦由紀子, 藤村朗子, 田野将尊, 堀田昇吾. 看護基礎教育の臨地実習における看護技術到達度の理想と現実の差異―臨床指導者と看護大学教員との比較―. 第 41 回日本看護科学学会学術集会, 2021 年 12 月 4 日, 東京 (Web).

三浦由紀子，松山妙子，田野将尊，藤村朗子，堀田昇吾．看護基礎教育の演習及び臨地実習における看護技術到達度の現実―看護大学教員と学生の比較から―．第41回日本看護科学学会学術集会，2021年12月4-5日，東京（Web）．

森由美子，福田敦子，大賀一郎，橋本佳美，長田美咲，田野将尊，松山妙子，三浦由紀子，藤村朗子，堀田昇吾．看護技術到達度の理想と現実に対する臨床指導者の認識の差異―看護基礎教育における臨地実習場面から―．第41回日本看護科学学会学術集会，2021年12月4-5日，東京（Web）．

堀田昇吾，田野将尊，藤村朗子，松山妙子，三浦由紀子，久保恭子，桜井礼子，岩渕起江，宍戸路佳，吉田亜希子，森由美子，福田敦子，大賀一郎，橋本佳美，長田美咲．大学教員と実習指導者の連携による臨地実習教育の取り組み―指導者・大学教員・学生3者の立場から―．第41回日本看護科学学会学術集会，2021年12月5日，東京（Web）．

松山（山上）妙子，齋藤益子．青年期の自尊感情と生殖性における性的傾向の自己理解に関する実態調査～草食系と肉食系の2者比較から～．第19回日本生殖心理学会学術集会，2022年2月27日，福岡（Web）．

功刀美柚，網倉優花，伊藤智雅，大槻亜未，小林由依，清水公実子，須田優樹，田中渚彩，中澤舞衣，前川遥南，向山穂乃佳，菅野由貴子．新型コロナウイルス感染症感染拡大地域における手指消毒の意識と行動の関連．第27回日本災害医学会総会・学術集会，2022年3月3日-5日，広島（Web）．

4. 研究助成および研究成果報告書

特になし

5. 社会貢献（学会以外の講演等，学会や行政関連の役員，地域貢献，非常勤講師等）

岩満裕子

- 1) 医療人材管理特論．早稲田大学大学院．2021年4月-7月
- 2) ストレスマネジメント・タイムマネジメント．群馬県看護協会．認定看護管理者セカンドレベル講師．2021年7月2日
- 3) コンプリフトマネジメント．国際医療福祉大学．認定看護管理者セカンドレベル講師．2021年7月17日
- 4) チームマネジメント．埼玉医科大学．認定看護管理者ファーストレベル講師．2021年9月17日
- 5) リーダーシップ．国立障害者リハビリテーションセンター．脳卒中リハビリテーション看護認定看護師教育課程講師．2021年9月24日
- 6) グループマネジメント．東京福祉保健財団，認定看護管理ファーストレベル講師．2021年10月6日，10月20日
- 7) 医療機能評価事業 評価サーベイヤ．公益財団法人日本医療機能評価機構 2007年～
- 8) 公益財団法人東京都福祉保健財団 認定看護管理者研修教育課程委員 2018年～

松山妙子

- 1) 日本助産診断実践学会．常任幹事 編集
- 2) 日本母子看護学会．常任幹事 庶務
- 3) 日本生殖心理学会．評議委員
- 4) 第20回日本母子看護学会学術集会．Web講演会実行委員

- 5) 第 63 回日本母性衛生学会学術集会. プログラムワーキング委員
- 6) 日本生殖心理学会誌. 査読
- 7) ラダーⅡを対象とした看護過程の展開について(講義). 東京西徳洲会病院. 講師. 2021 年 9 月 9 日, 9 月 17 日, 10 月 6 日, 10 月 15 日
- 8) ラダーⅡを対象とした看護過程の展開について(演習). 東京西徳洲会病院. 講師. 2021 年 11 月 11 日, 11 月 19 日
- 9) NHO 埼玉病院 JMECC. インストラクター. 2021 年 8 月 8 日
- 10) 2021 年度日本生殖心理学会学術奨励賞受賞. 第 19 回日本生殖心理学会学術集会. 2022 年 2 月 27 日. 福岡.

6. 上記以外その他(原著, 総説, 短報, 研究報告, 実践報告, 資料以外の紙上発表等)

特になし

【成人老年看護学領域】

1. 著書(翻訳書を含む).

特になし

2. 論文等(原著, 総説, 短報, 研究報告, 実践報告, 資料)

岩渕起江 (2022). 高齢者施設における看護の質を高める. 臨床老年看護, 3・4 号, 日総研 (in press).

北村言, 仲上豪二郎, 渡辺千登世, 青木和恵, 稲田浩美, 紺家千鶴子, 谷口珠美, 吉田美香子, 田中秀子, 真田弘美 (2021). 褥瘡を有する在宅療養者に対する皮膚・排泄ケア認定看護師による遠隔支援の効率性の評価. 日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌, 25 (3), 654-660.

松尾まき, 朝澤恭子, 折元美雪, 大堀美樹 (2022). 医療系大学生におけるオンライン短期海外研修を通じた異文化受容、英語への意識およびコミュニケーション・スキルの変化. 東京医療保健大学紀要, 16 巻, (in press).

内藤亜由美, 江口忍 (2021). シンポジウム 2 同行訪問の現状を明らかにし、未来へ繋げる座長まとめ. 日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌, 25 (3), 535.

Satoh M, Sato N, Fujimura A (2021). Relationship between personality traits and health behavior among working women in Japan. Preventive Medicine Reports, 25. <https://doi.org/10.1016/j.pmedr.2021.101691>.

3. 学会における発表

内藤亜由美. シンポジウム 32 褥瘡診療皮膚排泄ケア認定看護師にできること. 第 37 回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会. 2021 年 4 月 25 日, 東京. (Web)

内藤亜由美. 共催セミナー お悩み解決 DESIGN®R 2020 I3C をどう判断するどうケアする. 第 30 回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会. 2021 年 7 月 3 日, 東京 (Web)

青木和恵, 糸川紅子, 櫻井和江. 排泄障害を有する終末期がん患者の皮膚障害に関する検討. 第 30 回日本創傷・オストミー・失禁管理学会, 2021 年 7 月 3-5 日, 博多 (Web)

Itokawa B, Sakurai K, Nakamura M, Mizushima F, Aoki K, Misao H. What kind of pain do patients with hand-foot syndrome experience? The 9th Asia pacific Enterostomal Therapy Nurse Association Conference, July3-5, Tokyo (Web)

内藤亜由美, 青木和恵. ロボットスーツ HAL®使用時のハーネスが褥瘡悪化原因であった頸髄損傷患者に対する褥瘡再発予防症例報告. 第 30 回日本創傷・オストミー・失禁管理学会, 2021 年 7 月 3-5 日, 東京 (Web)

内藤亜由美, 青木和恵. 10 年来のうつ滞性潰瘍を有する独居高齢者に対するバイオフィ

- ルム可視化を取入れた在宅ケアの実践報告. 第30回日本創傷・オストミー・失禁管理学会, 2021年7月3-5日, 東京 (Web)
- 藤村朗子, 荻田明子, 泥谷朋子. コロナ禍における看護学部生の統合実習形態の一考察. 第31回日本看護学教育学会学術集会, 2021年8月18日-9月18日, 名古屋 (Web)
- 泥谷朋子, 荻田明子. 「臨地に迫る」を目指した変則的臨地実習. 第31回日本看護学教育学会学術集会, 2021年8月18日-9月18日, 名古屋 (Web)
- 重田友理花, 乙子愛美, 小野葵, 相馬弥佳, 高橋琴乃, 高橋美衣, 野崎未来, 矢後杏奈, 山田麻友香, 福田淑江, 岩渕 起江, 折元 美雪, 大場久美. 東京都内の高齢者福祉センターに通う高齢者の自然災害に対する情報的備えとソーシャル・キャピタルとの関連. 第23回日本災害看護学会年次学術集会, 2021年9月4日-9月30日. (Web)
- 内藤亜由美. 公開セミナー1 介護現場で実践する床ずれ防止マットレスの選び方どのタイミングで、どれを使う. 第23回日本褥瘡学会学術集会, 2021年9月10日, 東京 (Web)
- 内藤亜由美. 渉外・学会連携委員会シンポジウム 急性期病院、在宅、高齢者施設、在宅療養支援病院での経験から考える課題. 第23回日本褥瘡学会学術集会, 2021年9月10日-10月29日, 東京. (Web)
- 内藤亜由美. 教育講演 DESIGN-R2020 の採点方法. 第23回日本褥瘡学会学術集会, 2021年9月10日-10月29日, 東京 (Web)
- 内藤亜由美, 山岸茂, 田鐘寛, 吉原千佳, 青木和恵. ドレーン管理が必要な直腸癌終末期患者に対する特定認定看護師の地域横断的活動. 第43回神奈川ストーマ研究会, WEB開催, 2021年10月2日, 横浜 (Web)
- 内藤亜由美, 牧野洋知, 岡智, 吉原千佳, 山岸茂, 青木和恵. シンポジウム1 目立たない傷痕を目指した手術・術後ケアの工夫 腹部手術における目立たない傷痕を目指した医師と看護師の協働. 第51回日本創傷治癒学会, 2021年11月26日. (Web)
- 内藤亜由美. シンポジウム1 病院と地域で取り組むフットケア診療. 第2回日本フットケア・足病医学会年次学術集会, 2021年12月10日, 横浜 (Web)
- Satoh M, Fujimura A, Miyagawa S. Difficulties and innovations in teaching anatomy in nursing An International. Association for Medical Education in Europe, November 16-18th, Wuhan China. August, 2021 (Web)
- 松山妙子, 三浦由紀子, 藤村朗子, 田野将尊, 堀田昇吾. 看護基礎教育の臨地実習における看護技術到達度の理想と現実の差異-臨床指導者と看護大学教員との比較-. 第41回日本看護科学学会学術集会, 2021年12月4日, 東京 (Web)
- 堀田昇吾, 藤村朗子, 田野将尊, 久保恭子, 桜井礼子, 宍戸路佳, 岩渕起江, 松山妙子, 三浦由紀子, 吉田亜希子, 森由美子, 福田敦子, 大賀一郎, 橋本佳美, 長田美咲. 交流集会 大学教員と実習指導者の連携による臨地実習の取り組み -指導者・大学教員・学生3者の立場から-. 第41回日本看護科学学会学術集会, 2021年12月5日, 東京 (Web)
- 三浦由紀子, 松山妙子, 田野将尊, 藤村朗子, 堀田昇吾. 看護基礎教育の演習及び臨地実習における看護技術到達度の現実 -看護大学教員と学生の比較-. 第41回日本看護科学学会学術集会, 2021年12月5日, 東京 (Web)
- 森由美子, 福田敦子, 橋本佳美, 大賀一郎, 長田美咲, 田野将尊, 松山妙子, 三浦由紀子, 藤村朗子, 堀田昇吾. 看護技術到達度の理想と現実に対する臨床指導者の認識の差異 -看護基礎教育における臨地実習場面から-. 第41回日本看護科学学会学術集会, 2021年12月5日, 東京. (Web)
- 松尾まき, 朝澤恭子, 折元美雪, 大堀美樹. 医療系大学生のオンライン海外研修を通じた異文化受容、英語への意識、コミュニケーション・スキルの評価. 第41回日本看護科学学会学術集会, 2021年12月4-5日, 愛知 (Web).
- 糸川紅子, 佐藤文, 田中悠美, 青木和恵. ストーマ保有者のセルフケアはどのような意味で用いられているか ~セルフケアの概念の再検討に向けた文献的考察~. 第39回日本ストーマ排泄リハビリテーション学会総会, 2022年2月11-12日, 高松 (Web)

糸川紅子，青木和恵，赤木郁子，中村正子，新田純子．臨床と乖離するがん看護教育の現状と課題．第36回日本がん看護学会学術集会，2022年2月18-19日，横浜（Web）
 内藤亜由美．パネルディスカッション障害者の熱傷 看護師の立場から．第30回日本熱傷学会関東地方会学術集会，2022年2月26日．（Web）
 篠崎杏里，有田未侑，飯島晴香，伊藤愛華，押野真優未，北野見優，杉浦晴香，竹俣花音，平田のどか，弘世初月，山内楓子，藤村朗子，荻田明子，泥谷朋子，櫻井敬子．COVID-19 パンデミック下における看護学実習での看護学部生の認識．第27回日本災害医学会学術集会，2022年3月4-6日，広島（Web）

4. 研究助成および研究成果報告書

佐藤みほ，宮川祥子，藤村朗子．3D画像と3Dプリント技術を融合した実践的な解剖学知識を高める学習システムの開発．日本学術振興会科学研究費補助金，基盤研究（C）．2018年度-2021年度．
 佐藤みほ，宮川祥子，井庭 崇，佐藤菜保子，藤村朗子．看護師のアセスメントプロセスの可視化に基づくAIを活用した学習支援システムの開発．日本学術振興会科学研究費補助金，基盤研究（C）．2021年度-2024年度．
 本谷久美子，齋藤美奈子，大工原慈仁，茂手木明美，藤村朗子．臨地実習指導者が求める周手術期領域の知識項目に関するミニマム・エッセンシャルズ-デルファイ法による調査-．2021年度一般社団法人日本看護学教育学会研究助成，2021年度-2022年度
 松山妙子，三浦由紀子，藤村朗子，田野将尊，堀田省吾．シームレスな卒後教育を見据えた看護技術教育に関する基礎的研究．2021年度学長裁量経費．2021年6月-2022年3月．
 泥谷朋子．疲労の程度を客観的，簡便に測定・評価するためのさまざまな指標の相互比較．2021年度学長裁量経費．2021年12月-2023年3月．

5. 社会貢献（学会以外の講演等，学会や行政関連の役員，地域貢献，非常勤講師等）

青木和恵

- 1) 静岡県県立静岡がんセンター認定看護師教育課程．皮膚のアセスメントとケア．非常勤講師．2021年8月27日．
- 2) 常葉大学健康科学部看護学科 緩和ケア論．非常勤講師．
- 3) 第31回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会．査読委員．
- 4) 第36回日本がん看護学会学術集会．査読委員．
- 5) 第39回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会学術集会．査読委員．
- 6) イレオストミーケアの悩み・困りごとに応える．第30回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会．共催セミナー座長．2021年7月3-5日．
- 7) 高齢者における防ぎきれない褥瘡の実態調査報告．第30回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会．理事会企画シンポジウム座長．2021年7月3-5日．
- 8) 多摩地区実習施設対象WEBセミナー高齢のための創傷・皮膚障害のケア，高齢者のスキンケア，褥瘡の病態とケア．セミナー講師．東京医療保健大学立川看護学部成人・老年看護学領域老年看護学担当企画．2021年9月17日．
- 9) 多摩地区実習施設対象WEBセミナー高齢のための創傷・皮膚障害のケア，高齢者のフットケア，癌性創傷のケア．セミナー司会．東京医療保健大学立川看護学部成人・老年看護学領域老年看護学担当企画．2021年10月15日．
- 10) 多摩地区実習施設対象WEBセミナー高齢のための創傷・皮膚障害のケア，高齢者の失禁関連皮膚障害のケア，ストーマケア．WEBセミナー講師．東京医療保健大学立川看護学部成人・老年看護学領域老年看護学担当企画．2021年11月19日．
- 11) 調査協力．慢性創傷の最先端治療と患者が抱える課題の日米比較．ASMC 株式会社
- 12) 日本創傷・オストミー・失禁管理学会．理事．
- 13) 日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会．理事．
- 14) 日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会広報委員会．委員長．

- 15)日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会ガイドライン委員会. 委員.
- 16)日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会災害対策委員会. 委員.
- 17)日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会あり方委員会. 委員.
- 18)日本創傷・オストミー・失禁管理学会. 学術教育委員会. 委員.
- 19)日本褥瘡学会学術・教育委員会. 委員.
- 20)日本褥瘡学会褥瘡認定師.
- 21)日本がん看護学会代議員.

内藤亜由美

- 1) 第 11 回学術集会国際リンパ浮腫フレームワークジャパン研究協議会. 大会長.
- 2) 第 23 回日本褥瘡学会学術集会. 一般社団法人日本褥瘡学会. 副会長.
- 3) 第 18 回学術集会日本褥瘡学会関東甲信越地方会. 副会長.
- 4) 国際リンパ浮腫フレームワークジャパン研究協議会. 理事.
- 5) 一般社団法人日本フットケア・足病医学会. 評議員.
- 6) 一般社団法人日本フットケア・足病医学会学会. 誌編集委員.
- 7) 一般社団法人日本フットケア・足病医学会. ガイドライン委員.
- 8) 一般社団法人日本フットケア・足病医学会. 在宅医療委員.
- 9) 一般社団法人日本褥瘡学会. 評議員.
- 10)一般社団法人日本褥瘡学会渉外・学会. 連携委員.
- 11)一般社団法人日本褥瘡学会. 在宅医療委員.
- 12)日本褥瘡学会・在宅ケア推進協会. 評議員.
- 13)一般社団法人日本創傷・オストミー・失禁管理学会. 評議員.
- 14)一般社団法人日本創傷・オストミー・失禁管理学会.
- 15)一般社団法人日本創傷・オストミー・失禁管理学会. 利益相反委員.
- 16) 一般社団法人日本創傷・オストミー・失禁管理学会. 論文賞・研究助成選考委員.
- 17)日本褥瘡学会関東甲信越地方会. 幹事.
- 18)日本褥瘡学会関東甲信越地方会. 神奈川県支部副代表.
- 19)東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻老年看護学分野. 客員研究員..
- 20)一般社団法人日本褥瘡学会. 第 5 回実態調査協力委員.
- 21)第 31 回日本創傷・オストミー・失禁管理学会. 学術集会プログラム委員.
- 22)第 30 回日本創傷・オストミー・失禁管理学会. 学術集会査読委員.
- 23) 第 31 回日本創傷・オストミー・失禁管理学会. 学術集会査読委員.
- 24)日本在宅医療連合学会. 日本在宅医療連合学会在宅 NPWT 認定制度企画運営ワーキンググループ.
- 25)令和三年度第 4 回厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発研究推進事業）特定行為研修の修了者の活用に関する研究. 研究協力者. .
- 26)第 30 回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会. 一般演題座長. 2021 年 7 月 3 日.
- 27)第 23 回日本褥瘡学会学術集会. 2021 年 9 月 11 日.
- 28)第 4 回褥瘡・創傷管理オンライン研修会在宅で使用可能な NPWT の種類と方法. 一般社団法人日本在宅医療連合学会. 2021 年 5 月 18 日.
- 29)第 16 回日本創傷・オストミー・失禁管理学会ブラッシュアップセミナー1 ウェルビーイングを支えるセルフケア用品の選択. 一般社団法人日本創傷・オストミー・失禁管理学会. 2021 年 5 月 22 日.
- 30)第 16 回日本創傷・オストミー・失禁管理学会ブラッシュアップセミナー2 ウェルビーイングを支えるセルフケア用品の選択. 一般社団法人日本創傷・オストミー・失禁管理学会. 2021 年 5 月 22 日.
- 31)2021 年度臨床スキンケア看護師講習会ハイリスク患者のスキンケア. 一般社団法人日本創傷・オストミー・失禁管理学会. 2021 年 11 月 12 日-12 月 10 日.

- 32)多摩地区実習施設対象 WEB セミナー高齢のための創傷・皮膚障害のケア，高齢者のスキンケア，褥瘡の病態とケア．セミナー司会．東京医療保健大学立川看護学部成人・老年看護学領域老年看護学担当企画. 2021 年 9 月 17 日.
- 33)多摩地区実習施設対象 WEB セミナー高齢のための創傷・皮膚障害のケア，高齢者のフットケア，癌性創傷のケア．セミナー講師．東京医療保健大学立川看護学部成人・老年看護学領域老年看護学担当企画. 2021 年 10 月 15 日.
- 34)多摩地区実習施設対象 WEB セミナー高齢のための創傷・皮膚障害のケア，高齢者の失禁関連皮膚障害のケア，ストーマケア．セミナー司会．東京医療保健大学立川看護学部成人・老年看護学領域老年看護学担当企画. 2021 年 11 月 19 日.
- 35)多摩地区実習施設対象 WEB セミナー高齢のための創傷・皮膚障害のケア，高齢者の下肢潰瘍の病態とケア．セミナー司会・講師．東京医療保健大学立川看護学部成人・老年看護学領域老年看護学担当企画. 2021 年 11 月 19 日.
- 36)第 4 回地域中核病院ウインタースクール創傷ケアにおける医師との連携．マルホ株式会社. 2021 年 11 月 26 日.
- 37)看護薬理学カンファレンス 2021 シンポジウム地域で行う専門的創傷ケア褥瘡悪化要因の徹底的な究明と多職種連携による褥瘡再発予防の取り組み．日本薬理学会. 2021 年 12 月 11 日.
- 38)2021 年度臨床スキンケア看護師講習会症例検討会アドバイザー．一般社団法人日本創傷・オストミー・失禁管理学会. 12 月 18 日.
- 39)看護師向け WEB ライブセミナー在宅で遭遇する皮膚疾患の治療・ケアマネジメントもう“tear”で“tear”は流さない～スキンケアの予防とケアのポイント～．白十字株式会社. 2022 年 1 月 22 日.
- 40)看護師向け WEB ライブセミナー在宅で遭遇する皮膚疾患の治療・ケアマネジメントもう“tear”で“tear”は流さない～スキンケアの予防とケアのポイント～．白十字株式会社. 2022 年 1 月 23 日.
- 41)日本褥瘡学会教育セミナーE ラーニング DESIGN-R2020，一般社団法人日本褥瘡学会. 2022 年 2 月 2 日.
- 42)日本褥瘡学会在宅褥瘡管理者養成セミナーE ラーニング褥瘡の予防，一般社団法人日本褥瘡学会. 2022 年 2 月 2 日.
- 43)冊子監修．長く元気に過ごすための毎日のフットケア．持田ヘルスケア株式会社.

藤村朗子

- 1) 日本クリティカルケア看護学会．専任査読委員.
- 2) 日本アディクション看護学会．査読委員.
- 3) 日本エンドオブライフケア学会．編集委員.
- 4) 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター行動医学研究部．客員研究員.
- 5) 第 17 回日本クリティカルケア看護学会学術集会事務局長. 2020 年 7 月～2021 年 3 月
- 6) 看護研究 BASIC」研修第 1 回．恩賜財団東京都済生会中央病院. 2022 年 2 月 9 日
- 7) 看護研究 BASIC」研修第 2 回．恩賜財団東京都済生会中央病院. 2022 年 2 月 14 日
- 8) 看護研究 BASIC」研修第 3 回．恩賜財団東京都済生会中央病院. 2022 年 3 月 2 日
- 9) 看護研究 BASIC」研修第 4 回．恩賜財団東京都済生会中央病院. 2022 年 3 月 9 日

櫻井敬子

- 1) Web セミナーサポート．多摩地区実習施設対象 WEB セミナー高齢のための創傷・皮膚障害のケア，高齢者のスキンケア，褥瘡の病態とケア．東京医療保健大学立川看護学部成人・老年看護学領域老年看護学担当企画

岩渕起江

- 1) 特別講義高齢者施設体験学習．明治薬科大学特別講義. 2021 年 6 月 22 日.

折元美雪

- 1) 日本糖尿病教育・看護学会. 専任査読者. 2020年10月13日-2022年9月30日

泥谷朋子

- 1) 日本救急看護学会. 評議員・災害看護委員会.(2015年10月より現在に至る)
- 2) 日本救急看護学会. 災害看護初期対応セミナーインストラクター. 2021年10月24日
- 3) 日本救急看護学会. 災害看護初期対応セミナーインストラクター. 2021年12月12日
- 4) 日本救急看護学会. 災害看護初期対応セミナーインストラクター. 2022年2月11日
- 5) 国立大学法人筑波大学医学群看護学類. 非常勤講師. 2021年7月1日-2021年8月31日
- 6) 第23回日本救急看護学会学術集会. 査読担当.
- 7) 第23回日本救急看護学会学術集会. 一般演題座長. 2021年10月22-23日
- 8) 救急看護認定看護師会. 第3回ブラッシュアップセミナー交流集会演者. 2022年2月23日

6. 上記以外その他(原著, 総説, 短報, 研究報告, 実践報告, 資料以外の紙上発表等)

- 糸川紅子, 青木和恵 (2021). がん看護(南江堂)リレーエッセイ こちらがん看護スペシャリスト奮闘中! -新たな敵と対峙してがん医療を前進させる- 連載にあたって. がん看護, 26 (1), 49.
- 内藤亜由美 (2021). 高齢者のスキントラブル1 高齢者の皮膚の乾燥. 健康すまいる, 25. 1-2.
- 折本美雪 (2021). 老年看護学領域国家試験問題解説. 医療系大学教育支援システム ESS モバイル (看護師版)

【小児看護学領域】

1. 著書(翻訳書を含む)

特になし

2. 論文等(原著, 総説, 短報, 研究報告, 実践報告, 資料)

- 金井美香, 久保恭子 (2021). 基礎看護技術の校内演習における熟達教員の指導の視点と実践のプロセス. 東京都立看護専門学校紀要, 9 (1), 11-25.
- 久保恭子, 宍戸路佳, 坂口由紀子 (2021). 保育施設における心疾患児の健康管理・心事故予防対策 - 日韓の保育施設の比較 -. 保育と保健, 27 (1), 41-43.
- 久保恭子, 宍戸路佳, 坂口由紀子 (2022). 無料動画配信を使った心肺蘇生法の映像コンテンツと課題. 保育と保健, 28 (1), 13-15.
- 山本佳代乃, 久保恭子 (2021). 熟達教員の在宅看護学実習での同行訪問指導による生活状況の教材化. 東京都立看護専門学校紀要, 9 (1), 26-36.
- 湯浅文子, 久保恭子 (2021). 看護教員経験年数とロールモデルの要素との関連. 東京都立看護専門学校紀要, 9 (1), 1-10.

3. 学会における発表

- Hamasaki A, Kubo K. EXPERIENCES OF COUPLES HAVING STOPPED INFERTILITY TREATMENT. 24th East Asian Forum of Nursing Scholars. (24th EAFONS), 2021年4月15-16日, Philippines (Web).
- 久保恭子, 宍戸路佳, 坂口由紀子他. 無料動画配信を使った心肺蘇生法の学習コンテンツと課題. 第20回日本保育保健学会, 2021年5月21日-22日. 岐阜 (Web).
- 小原綾夏, 宍戸路佳, 久保恭子他. 養育者が子どもに行った新型コロナウイルス感染症予防対策と生活の変化. 第68回小児保健学会, 2021年6月18日-19日, 沖縄 (Web).

久保恭子, 坂口由紀子. 親亡き後の在宅難病児(者)の身体的・心理的・社会的問題の予測と対処. 第68回小児保健学会, 2021年6月18日-19日, 沖縄(Web).

坂口由紀子, 宍戸路佳, 久保恭子他. 新型コロナウイルス感染拡大がムコ多糖症および類似疾患児(者)の日常生活へ及ぼした影響と今後の希望. 第68回小児保健学会, 2021年6月18日-19日, 沖縄(Web).

宍戸路佳, 久保恭子, 坂口由紀子他. 養育者が子どもに行った新型コロナウイルス感染症予防対策と生活の変化. 第68回小児保健学会, 2021年6月18日-19日, 沖縄(Web).

坂口由紀子, 久保恭子. 被災した子育て期の看護師の精神健康状態 - 看護師以外の職種との比較から-. 第23回日本災害看護学会, 2021年9月4-5日, 新潟(Web).

久保恭子, 宍戸路佳, 望月あゆみ他. 火山噴火災害と健康被害や看護に関する研究の動向 2000年から2021年に発表された国内文献の分析. 第23回日本災害看護学会, 2021年9月4-5日, 新潟(Web).

及川裕子, 小平明日香, 久保恭子, 宍戸路佳他. 乳幼児を子育て中の夫婦のコロナ禍における家事育児の協働の変化. 第62回日本母性衛生学会, 2021年10月15-16日, 岡山(Web).

小平明日香, 及川裕子, 久保恭子他. 新型コロナウイルス感染拡大の中での出産と子どもへの愛着との関連. 第62回日本母性衛生学会, 2021年10月15-16日, 岡山(Web).

今井充子, 及川裕子, 久保恭子, 宍戸路佳他. 3歳以下の子どもの持つ夫婦の家事負担感と年齢の関連. 第62回日本母性衛生学会, 2021年10月15-16日, 岡山(Web).

Imai M, Oikawa Y, Kubo K, Shishido M. Relationship between husband's and wife's feelings of being burdened with housework and their employment status in Japanese couples with one child of three years or less. ICN Congress, 2021年11月2日-4日, United Arab Emirates (Web).

及川裕子, 小平明日香, 久保恭子, 宍戸路佳他. 日本における3歳以下の子どもの持つ夫婦のメンタルヘルスと夫婦関係との関連. ICN Congress, 2021年11月2日-4日, United Arab Emirates (Web).

Shishido M, Kubo K. Relationship between caregiver's depression due to spread of COVID-19 and their children's lives. ICN Congress, 2021年11月2日-4日, United Arab Emirates (Web).

4. 研究助成および研究成果報告

岸田泰子, 久保恭子. 倫理的問題を含む高度生殖医療における看護教育及びケアの指針の作成. 文部省科学省研究費補助金, 基盤研究(C). 2019年度-2022年度.

久保恭子, 宍戸路佳. 保育・教育施設等での心疾患児の健康管理・心事故予防の分析と予防対策プログラムの検討. 文部省科学省研究費補助金基盤研究, (挑戦的研究 萌芽). 2019年度-2021年度.

日比野直子, 久保恭子. 防災・減災に必要な想定外を想定する力を育てる火災教育プログラムの開発. 文部省科学省研究費補助金, 基盤研究(C). 2020年度-2022年度.

坂口由紀子, 久保恭子. 難病児の父親役割獲得と機能的家族への移行支援の検討. 令和3年度 フランスベッドメディカルホームケア研究・助成財団(研究代表者 坂口由紀子). 2021年度-2022年度.

久保恭子, 宍戸路佳, 坂口由紀子他. 在宅で生活する重症心身障害児・者の親亡きあとの居場所・生活支援の移行とシームレスな自立支援モデルの検討. 2021年度在宅医療助成勇美 記念財団研究助成(研究代表者 久保恭子). 2021年度-2024年度.

宍戸路佳, 久保恭子, 望月あゆみ. イラストでわかる災害看護学教材の開発. 2021年度学長裁量費.

5. 社会貢献（学会以外の講演等、学会や行政関連の役員、地域貢献、非常勤講師等）

久保恭子

- 1) 日本災害看護学会理事
- 2) 日本災害看護学会誌 査読委員
- 3) 日本アディクション看護学会誌 査読委員
- 4) 日本小児看護学会誌 査読委員
- 5) アロマで石鹸作り. 立川看護学部. 2021 年 8 月 26 日
- 6) 保育士らを対象にした CPR AED エピペン講習会. 2021 年 10 月 30 日
- 7) 揺さぶられ症候群ファシリテーター養成講座. 2022 年 1 月 30 日
- 8) MECP2 症候群患者家族の会員向け 月 2 回のヨガとおしゃべり広場の開催. 2021 年 10 月より現在
- 9) 東京都内における子育て家族対象のヨガおしゃべり広場. 週 1 回開催 2021 年 4 月より現在
- 10) 練馬子育て支援センターにて妊娠期の夫婦を対象にしたヨガ. 年 2 回実施(6 月 10 月)
- 11) 東京都看護教育研究推進者養成研修講師
- 12) 東京都看護教員養成研修講師

穴戸路佳

- 1) NPO 法人グループホームとうもろろ 看護顧問(看護指導相談役)
- 2) NPO 法人 SACHI 理事 (子育て支援団体)
- 3) アロマで石鹸作り. 立川看護学部. 2021 年 8 月 26 日
- 4) 保育士らを対象にした CPR AED エピペン講習会. 2021 年 10 月 30 日
- 5) 揺さぶられ症候群ファシリテーター養成講座. 2022 年 1 月 30 日
- 6) NPO 法人とうもろろ CPR AED 窒息時の対応の講習会. 2021 年 11 月
- 7) NPO 法人とうもろろ 感染症対応についての講習会. 2021 年 11 月
- 8) NPO 法人とうもろろ ヒルシュスプルング病等疾患についての講習会. 2021 年 12 月
- 9) 東京都内における子育て家族対象のヨガおしゃべり広場. 週 1 回開催 2021 年 4 月より現在
- 10) 練馬子育て支援センターにて妊娠期の夫婦を対象にしたヨガ. 年 2 回実施(6 月 10 月)

望月あゆみ

- 1) アロマで石鹸作り. 立川看護学部. 2021 年 8 月 26 日
- 2) 保育士らを対象にした CPR AED エピペン講習会. 2021 年 10 月 30 日
- 3) 東京都内における子育て家族対象のヨガおしゃべり広場. 週 1 回開催 2021 年 4 月より現在

【母性看護学領域】

1. 著書（翻訳書を含む）

特になし

2. 論文等（原著，総説，短報，研究報告，実践報告，資料）

特になし

3. 学会における発表

- 衣川さえ子, 竹中泉. 医療安全教育を担う看護教員と臨床看護師の教育実践力を高める研鑽支援モデルの運用上の課題. 日本看護学教育学会第 31 回学術集会, 2021 年 8 月 18 日-9 月 17 日, 名古屋 (Web)
- 磯山あけみ, 衣川さえ子. 就学前の孫を持つ祖父母の孫育児への加担状況と役割発揮に関する認識. 日本家族看護学会第 28 回学術集会, 2021 年 10 月 2-3 日, 東京 (Web)
- 黒澤範子, 衣川さえ子, 吉田亜希子. 開発動画教材「子育て広場でのフィールドワーク学習方法」に対する看護学生の評価. 日本母性衛生学会第 62 回総会・学術集会, 2021 年 10 月 15 日-11 月 15 日, 岡山 (Web)
- 仁藤末菜子, 島田寛子, 黒澤範子, 吉田亜希子. 災害避難における液体ミルクの使用に対する乳児を育てる母親の認識. 第 62 回日本母性衛生学会総会・学術集会, 2021 年 10 月 15 日-11 月 15 日, 岡山 (Web)
- 堀田昇吾, 藤村朗子, 田野将尊, 久保恭子, 桜井礼子, 宍戸路佳, 岩渕起江, 松山妙子, 三浦由紀子, 吉田亜希子. 大学教員と実習指導者の連携による臨地実習教育の取り組み, 指導者・大学教員・学生 3 者の立場から. 日本看護科学学会第 41 回学術集会, 2021 年 12 月 4-5 日, 名古屋 (Web)
- 磯山あけみ, 衣川さえ子. 就学前の孫を持つ祖父母の孫育児への加担に関する関連要因の検討. 日本看護科学学会第 41 回学術集会, 2021 年 12 月 4-5 日, 名古屋 (Web)
- 磯山あけみ, 衣川さえ子. 就学前の孫を持つ祖父母の孫育児への加担度及び負担感と生きがい意識との関連. 日本助産学会第 36 回学術集会, 2022 年 3 月 19-20 日, 大阪 (Web)

4. 研究助成および研究成果報告書

- 梅津靖江, 衣川さえ子. 訪問看護における家族介護者への医療安全に関する教育プログラムの開発. 日本学術振興会科学研究費補助金, 基盤研究(C). 2018 年度-2020 年度.
- 磯山あけみ, 衣川さえ子. 新たな孫を迎える祖父母の家族役割機能を高める学習プログラムの開発. 日本学術振興会科学研究費補助金, 基盤研究(C). 2020 年度-2022 年度.
- 黒澤範子, 衣川さえ子, 吉田亜希子. リアリティが理解できる新生児ケアに関する教材開発. 学長裁量経費研究. 2022 年度.

5. 社会貢献 (学会以外の講演等, 学会や行政関連の役員, 地域貢献, 非常勤講師等)

衣川さえ子

講義. 看護教育方法. 看護教員養成 e ラーニング. 2021 年度.

黒澤範子

講演. 性感染症予防. 青梅市立新町中学校. 2021 年 7 月 10 日.

吉田亜希子

ALSO-JAPAN, ALSO プロバイダーコース in 群馬 2022 インストラクター. 2022 年 3 月 19 日-20 日.

6. 上記以外その他 (原著, 総説, 短報, 研究報告, 実践報告, 資料以外の紙上発表等)

- 黒澤範子, 衣川さえ子, 吉田亜希子 (2021). 母性看護の基本的技術習得における自己練習を促す動画教材の開発. 看護人材育成, 18 (1), 94-97.
- 黒澤範子, 衣川さえ子, 吉田亜希子 (2021). 母性看護技術の習得を促す双方向型遠隔授

業. 看護教育, 62 (10), 976-980.

【精神看護学領域】

1. 著書（翻訳書を含む）

特になし

2. 論文等（原著，総説，短報，研究報告，実践報告，資料）

小川賀恵，森千鶴（2022）．入院している統合失調症者の人生の意味の関連要因．日本看護研究学会，44(5)，709-719.

3. 学会における発表

松山妙子，三浦由紀子，藤村朗子，田野将尊，堀田昇吾．看護基礎教育の臨地実習における看護技術到達度の理想と現実の差異－臨床指導者と看護大学教員との比較－．第41回日本看護科学学会学術集会，2021年12月4日-5日，愛知（Web）.

三浦由紀子，松山妙子，田野将尊，藤村朗子，堀田昇吾．看護基礎教育の演習及び臨地実習における看護技術到達度の現実－看護大学教員と学生の比較－．第41回日本看護科学学会学術集会，2021年12月4日-5日，愛知（Web）.

森由美子，福田敦子，橋本佳美，大賀一郎，長田 美咲，田野将尊，松山妙子，三浦由紀子，藤村朗子，堀田昇吾．看護技術到達度の理想と現実に対する臨床指導者の認識の差異－看護基礎教育における臨地実習場面から－．第41回日本看護科学学会学術集会，2021年12月4日-5日，愛知（Web）.

宮島多映子，村松 仁，中村朋子，日々の看護の気づきを新しい看護技術として開発し，対象者に還元するために（Miyajima 式腹部圧迫法の例）．日本看護研究学会雑誌，44(3)，349. 2021年8月，仙台（web）

高田夢瞳，三浦珠奈，小川賀恵，田野将尊，村松仁．災害時における精神障害者・専門職種が求める支援の在り方に関する文献研究．第41回日本看護科学学会学術集会，2021年12月4日-5日，愛知（Web）.

田野将尊，菅谷智一，森千鶴．日本における統合失調症者に対する認知機能改善プログラムに関する文献レビュー．第41回日本看護科学学会学術集会，2021年12月4日-5日，愛知（Web）.

4. 研究助成および研究成果報告書

宮島多映子，村松 仁，中村朋子，土井一浩，Miyajima 式腹部圧迫法の臨床応用－PhaseⅢの拡大－，日本学術振興会科学研究費補助金，基盤研究（C），2018年度-2021年度.

小川賀恵．地域生活を送る精神疾患患者の心理的災害耐性を高める防災・発災手帳の作成．日本学術振興会科学研究費補助金，若手研究．2020年度-2022年度.

田野将尊．精神科救急・急性期病棟看護師のための地域生活の視点を持った看護プロトコルの開発．日本学術振興会科学研究費補助金．，若手研究．2019年度-2021年度.

5. 社会貢献（学会以外の講演等，学会や行政関連の役員，地域貢献，非常勤講師等）

田野将尊

1) 明星大学人文学部福祉実践学科 非常勤講師

- 2) 医療法人埼玉会埼玉草加病院 非常勤看護師 (リエゾンアドバイザー)
- 3) 第 17 回日本クリティカルケア看護学会学術集会査読委員
- 4) 東京医療保健大学・立川市共催公開講座 講師「コロナ疲れとの上手な付き合い方～健やかな睡眠へのいざない～」, 2021 年 9 月 11 日, 立川.
- 5) 2021 年度東京医療保健大学立川看護学部 看護学実習連携会議、コロナ禍での実習において「臨床」を感じてもらうための工夫と課題、2021 年 12 月 13 日、東京医療保健大学立川看護学部.

小川賀恵

- 1) 東京医療保健大学・立川市共催公開講座 講師「コロナ疲れとの上手な付き合い方～健やかな睡眠へのいざない～」, 2021 年 9 月 11 日, 立川.

6. 上記以外その他(原著, 総説, 短報, 研究報告, 実践報告, 資料以外の紙上発表等)

- 田野将尊 (2021). メディカコンクール 第 111 回看護師国家試験対策テスト第 1 回, メディカ出版, 大阪. 問題・解答・解説作成
- 田野将尊 (2021). メディカコンクール 第 111 回看護師国家試験対策テスト第 2 回, メディカ出版, 大阪. 問題・解答・解説作成
- 田野将尊 (2021). メディカコンクール 第 111 回看護師国家試験対策テスト第 3 回, メディカ出版, 大阪. 問題・解答・解説作成
- 小川賀恵 (2021). メディカコンクール 第 111 回看護師国家試験対策テスト第 2 回, メディカ出版, 大阪. 問題・解答・解説作成
- 小川賀恵 (2021). メディカコンクール 第 111 回看護師国家試験対策テスト第 3 回, メディカ出版, 大阪. 問題・解答・解説作成

【在宅看護学領域】

1. 著書(翻訳書を含む)

特になし

2. 論文等(原著、総説、短報、研究報告、実践報告、資料)

- テイラー栄子, 河原加代子(2022). 首都圏の指定訪問看護事業所の人材育成に関する研究 管理者による訪問看護への教育支援に焦点を当てて. 日本保健科学学会誌, 24(4), 238-247.

3. 学会における発表

- 根本一輝, 及川さところ, 青木嵩弥, 小柳元, 吉川加奈子, 小山珠美, テイラー栄子, 桜井礼子. 大規模災害を想定した糖尿病療養者が食事療法を継続するための防災意識と備えの実態調査. 日本災害看護学会第 23 回年次大会, 2021 年 9 月, 新潟 (Web).
- 堀田昇吾, 藤村朗子, 田野将尊, 久保恭子, 桜井礼子, 穴戸路佳, 岩渕起, 松山妙子, 三浦由紀子, 吉田亜希子. 大学教員と実習指導者の連携による臨地実習教育の取り組み—指導者・大学教員・学生 3 者の立場から—. 第 41 回日本看護科学学会学術集会, 2021 年 12 月 5 日, 愛知 (Web).

4. 研究助成および研究成果報告書

特になし

5. 社会貢献（学会以外の講演等、学会や行政関連の役員、地域貢献、非常勤講師等）

桜井礼子

- 1) 大分県看護協会 看護管理認定看護師セカンドレベル教育課程 講師. 2021 年 8 月 25 日
- 2) 日本放射線看護学会理事.
- 3) 日本放射線看護学会広報・渉外委員会委員.
- 4) 日本放射線看護学会 査読委員.
- 5) 日本放射線看護学会第 11 回学術集会企画委員会委員長.
- 6) 原子力人材育成等推進事業補助金(原子力規制人材育成事業),「医学部における放射線健康リスク科学教育の必修化を支える教育システムの構築」,講義内容検討委員会委員(看護).

吉川加奈子

- 1) 日本放射線看護学会第 11 回学術集会 事務局・企画委員.

6. 上記以外その他(原著、総説、短報、研究報告、実践報告、資料以外の紙上発表等)

特になし